

障害者芸術文化活動 支援センター事業

2018 Annual Report



もくじ

- 2 障害者芸術文化活動普及支援事業とは
- 4 はじめに

Part.1 相談対応

- 6 今年度の相談活動実績
- 7 寄せられた相談の内容 / 抜粋
- 8 寄せられた相談とその対応について

Part.2 人材育成

- 12 実施概要
- 13 展示技術に関する研修
- 14 活動体験に関する研修(美術)
- 15 活動体験に関する研修(舞台表現)
- 16 作品鑑賞に関する研修
- 17 権利保護に関する研修
- 18 アンケート結果

Part.3 関係者のネットワークづくり

協力委員会

- 21 概要
- 22 協力委員会議事抄録
- ザ・ベストワンショー～創作ワークショップ&ステージ～
- 27 開催概要
- 28 イベントレポート

Part.4 発表等の機会創出

「第15回滋賀県施設・学校合同企画展」

- 33 開催概要
- 34 展覧会開催までのプロセス
- 36 展覧会Ⅰ開催風景
- 37 展覧会Ⅱ開催風景
- 38 関連イベントの開催
- 39 ボランティアスタッフの活動
- 40 アドバイザーのコメント
- 41 実行委員アンケート
- 42 来場者アンケート

Part.5 情報収集・発信

- 44 ウェブサイト・リーフレット紹介

Part.6 連携事務局

- 48 実施団体の紹介
- 50 全国連絡会議の開催
- 52 広域センター未設置ブロックのフォロー業務
- 53 情報発信
- 54 総括
- 55 謝辞

□本文中の略語について

普及支援事業	障害者芸術文化活動普及支援事業の略称(2017年度から実施)
モデル事業	障害者の芸術活動支援モデル事業(2014～2016年度実施)の略称
アイサ	アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター(障害者芸術文化活動支援センター)の略称
著作権等保護ガイドライン	「障害福祉サービス事業所の造形活動における作品の著作権等保護のための指針 ～著作権等保護ガイドライン～」(2012年度/滋賀県策定)
施設・学校合同企画展.ing展	第15回滋賀県施設・学校合同企画展ing…～障害のある人の進行形～
実行委員会	第15回滋賀県施設・学校合同企画展の実行委員会
連携事務局	2018年度障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局 (美術分野は社会福祉法人グロー、舞台芸術分野は社会福祉法人大阪障害者自立支援協会)
NO-MA	ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
グロー	社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～

「障害者芸術文化活動普及支援事業」とは

厚生労働省補助事業として、2014～2016年度に実施された「障害者の芸術活動支援モデル事業」では、全国12か所で、障害のある作者やその家族、障害のある人たちの創作活動を支援する人たちを支える様々なプログラムが実施されました。それらの積み上げられたノウハウを全国に普及することを目的として、2017年度から美術分野に加えて舞台芸術分野も対象となり「障害者芸術文化活動普及支援事業」が実施されています。

社会福祉法人グロー（GLOW）は、滋賀県において「障害者芸術文化活動支援センター」を設置して、都道府県レベルにおける活動支援に加え、全国5ブロックの広域センターに対する支援や全国24か所ある美術分野の支援センターの取りまとめなどを行う全国連携事務局を、以下のとおり担いました。（舞台芸術分野の全国連携事務局は、社会福祉法人大阪障害者自立支援協会が担当）

1. 都道府県レベルにおける活動支援 ——滋賀県障害者芸術活動支援センターの設置

(1) 障害のある人やその家族、障害福祉サービス事業所等に対する相談支援

芸術文化活動を行う障害のある人やその家族、障害福祉サービス事業所、文化施設等からの相談（活動や発表の場に関する情報、権利保護、鑑賞支援、作品の販売・公演、記録・保存等）に対して助言を行う。

(2) 芸術文化活動を支援する人材育成等

芸術文化活動の支援方法、著作権等の権利保護、障害特性への理解等に関する研修等を実施する。

- ①芸術文化活動の支援方法に関する研修〈2回〉
- ②著作権等の権利保護に関する研修〈1回〉
- ③作品発表に関する技術研修〈1回〉
- ④鑑賞支援に関する研修〈1回〉

(3) 関係者のネットワークづくり

分野や領域を超えた関係者とのネットワークを構築し、障害者の芸術文化活動を支える個人・団体の連携を図る。

①協力委員会の開催

美術と舞台芸術の専門家、福祉関係者、特別支援学校職員、都道府県や市町の障害福祉及び芸術文化の担当者、弁護士、地域住民による委員会を開催し、事業実施について助言を得る。

②交流の場づくりの実施

芸術文化活動を支える人材が連携・協力できるよう、障害のある人やその家族、福祉関係者、美術関係者、地域住民等が交流できる場を創出する。

(4) 発表等の機会創出

障害福祉サービス事業所、特別支援学校等とボードレス・アートミュージアムNO-MAで「第15回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会」を組織する。この実行委員会において、展示構成及び関連イベントに

関する協議を行い、ボードレス・アートミュージアムNO-MAで展覧会を開催する。

(5) 情報収集・発信

①リーフレットの発行

アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンターのリーフレットを作成し、県内の障害福祉サービス事業所等に配付したり、直接訪問することで、事業周知及び情報収集を図る。

②ウェブサイトの運営

アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンターのウェブサイトを改修し、より効果的な事業周知と情報収集を図る。

2. 全国レベルにおける活動支援 ——連携事務局（美術分野）の設置

(1) 広域センター、支援センターへのアドバイス

広域センターや支援センターの運営がより充実するよう、各センターからの相談に応じる。

※今年度は全国7ブロックのうち5ブロックに広域センターが設置された。

(2) 全国連絡会議〈3回〉、研修会の開催

広域センター、支援センター、事業実施等道府県担当者を交えた全国連絡会議や研修会を開催する。

(3) 全国の情報収集・発信、ネットワークの構築

本事業ウェブサイトを活用し、広域センター、支援センターが実施する事業の情報を収集・発信すると共に、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク（以下「全国ネットワーク」と表記）のウェブサイト「障害者芸術情報ナビ」との連携により、全国の障害当事者へ芸術文化活動に関する情報を届け、障害当事者の芸術文化活動への参加意欲の向上を促す。

(4) 事業広報媒体の作成と普及

事業啓発リーフレットの作成及び先述したホームページを活用し、事業広報を積極的に展開するとともに、「全国ネットワーク」や全国障害者芸術・文化祭実行委員会の実施県に配置されるコーディネーターと協力し、事業周知を図る。

(5) 全国の成果報告のとりまとめ、公表等

広域センター、支援センター、全国連携事務局の事業成果は、舞台芸術分野の全国連携事務局及び厚生労働省と協議の上、報告、公表を行う。第3回全国連絡会議と同時期に成果報告会を開催する。

(6) 障害者団体、芸術団体等との連携

舞台芸術分野の全国連携事務局、広域センターと連携し、全国ネットワークの定期で開催している会議への参加、全国ネットワークが設立したウェブサイト「障害者芸術情報ナビ」の情報の更新の促進などを通して、本事業に関する情報発信や普及の強化を図るとともに、当事者の芸術文化活動への参加意欲向上を促す。

社会福祉法人グロー（当時：滋賀県社会福祉事業団）は、2012年6月にアール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター（略称：アイサ）を開設し、今年で7年が経過しました。アイサは、障害のある人が安心して創作活動ができる環境づくりを目指しており、障害のある人やその家族、障害福祉施設の担当者等からの相談対応や、障害のある人の創作活動を支援する人材の育成（研修会）などの事業を行っています。（詳細はP.6）

アイサ開設当時、障害のある人の創作活動に関する相談対応を専門に看板を掲げた団体は（私たちが調べた範囲では）全国唯一でしたが、厚生労働省では2014年から「障害者の芸術活動支援モデル事業」、2017年から「障害者芸術文化活動普及支援事業」が始まり、現在は、24都府県に「障害者芸術文化活動支援センター」が設置され、アイサが目指す「障害のある人が安心して創作活動ができる環境づくり」は、全国規模で取り組みが進んでいます。2015年には、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク」が発足し、27の障害福祉当事者団体が情報共有・連携できる枠組みが組織されています。そして2018年6月には、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律が施行され、今後、各都道府県で「障害者文化芸術推進基本計画」が策定されていく見込みです。これらの動きを見るだけでも、障害者の文化芸術に関する社会状況が大きく変動してきていることが分かります。このような時代にあり、滋賀県においても障害のある人の美術や舞台表現の活動をさらに広げていくにあたって、アイサが担うべき役割は大きいと自認しています。

滋賀県が2017年3月に調査したところ、障害福祉施設185か所（回収数143件）のうち造形活動（絵画や陶芸等）を行っているとは回答したのは77か

所、舞台表現活動（音楽、演劇、ダンス等）を行っているとは回答したのは59か所ありました。2015年の同調査と比較すると、造形活動を行っている障害福祉施設は21か所増えています（舞台表現活動は調査なし）。県の障害者アート公募展への応募者数は2012年度と今年度を比較すると66名増えています。舞台芸術に関しては、59事業所が舞台表現に関する取り組みを実施しています。2002年から合唱やダンス、打楽器演奏などを実施する表現活動ワークショップが県内6カ所で継続して活動しています。これらの数値から、美術分野に関しては障害のある人が創作活動したり、発表する機会は着実に広がっていることが分かり、舞台芸術分野に関しては、各圏域に長年にわたって活動する団体があることが滋賀の特徴と言えるでしょう。

アイサは昨年度から美術に加えて舞台芸術に関しても事業の対象を拡大しましたが、舞台芸術に関する相談はほとんど寄せられませんでした。また、研修会の開催数が増加したことにより、各回の参加者が低迷したことも課題でした。そのため今年度は、情報発信に注力してこれらの課題を克服することを意識して事業を実施しました。本報告書では、アイサで行った相談対応、人材育成、ネットワークづくり、発表等の機会創出に関する取り組みを主にまとめています。本書が、障害者の芸術文化活動とその支援の現場でご活用いただけましたら幸いです。

2019年3月
社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

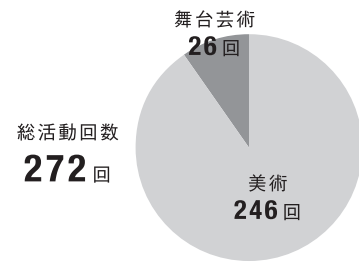
相談対応

2012年6月に開設したアール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター（略称：アイサ）は、障害のある人が安心と希望を持って創作活動に取り組める環境づくりを進めることを目的に活動しています。主な事業として取り組んできたことの一つに相談活動があり、障害のある作者やそのご家族、障害福祉施設の造形活動担当者をはじめ、企業や報道関係者からの相談などに対応してきました。

今年度の相談活動実績

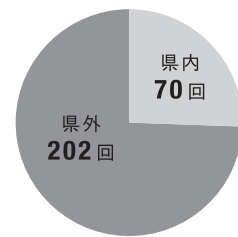
今年度は、3月10日時点で272回の相談活動を行いました。これらの相談活動について、相談者の立場や内容等を項目ごとに分けて傾向をまとめました。

相談件数



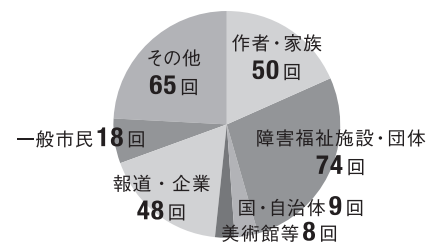
集計期間=2018年4月1日～2019年3月10日
昨年度は舞台芸術に関する相談は寄せられませんが、今年度は舞台芸術に関する相談が少しずつではありますが寄せられました。

県内外別



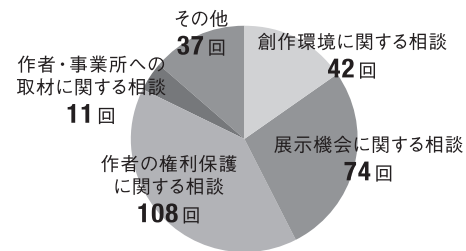
アイサ開設以来、県外からの相談が約7割を占めてきており、昨年度はほぼ同数の活動回数となりましたが、今年度は県外からの相談による活動回数が再び多くなりました。

相談者別



例年、報道関係者が多いですが、今年度は障害福祉施設・団体からの相談が最も多い結果となりました。「その他」の内訳は文化や医療などの団体が占めており、多様な分野からの相談を受けている状況があります。

相談内容別



作者の権利保護に関する相談のなかで作品の二次利用に関するものは67回、売買に関するものは41回でした。二次利用に関する相談は件数も対応の回数も多い傾向がありますが、売買に関する相談が増えてきたのは今年度の特徴です。

寄せられた相談の内容 / 抜粋

創作環境に関する相談

- 近所で造形教室を探しているので教えてほしい (作者、相談支援事業所)
- 創作活動を活発に行っている福祉施設の見学にいきたいので情報が欲しい (障害福祉施設)
- アートの指導をしてくれる講師を探しているので繋いでほしい (障害福祉施設)
- 主宰する創作活動の今後についてアドバイスがほしい (一般)

展示機会に関する相談

- 公募展情報や貸しギャラリーの情報を教えてほしい (作者・家族、障害福祉施設)
- 障害のある人の作品を見られる場所を教えてほしい (市民)
- アール・ブリュットの展示会を開催したいので、開催方法を教えてほしい (市民)
- 精神障害のある仲間との展示会開催費用の助成金を取りたい (作者)
- 全国規模の公募展開催に向けて先行事例を知りたい (公益社団法人)

作者の権利保護に関する相談

- 作品売買についてどのような手続きを踏めばよいか教えてほしい (障害福祉施設)
- 公募展入選作品を二次利用するための書面の取り交わしについて助言がほしい (美術関係者)
- 作品取扱規程を作成しているが、どのような文言にすればよいかアドバイスしてほしい (障害福祉施設)
- 展示会に既存のキャラクターをモチーフにした作品を展示しても問題ないか教えてほしい (障害福祉施設)

作者、事業所等への取材に関する相談

- 障害者芸術に関する取り組みを知りたい (市民、自治体)
- 活発に造形活動を行う障害福祉施設を見学したいので情報がほしい (障害福祉施設)

舞台表現に関する相談

- グローの福祉施設で声楽アンサンブルの出張WSがしたい (一般市民)
- 自分たちの活動をアイサウェブサイトで紹介してほしい (障害福祉施設)

寄せられた相談とその対応について

2014～2017年度までのアイサ事業報告書に、よく寄せられる相談として「展示会の開催方法（作品の借用依頼）を教えて欲しい」「作品画像を広報物に掲載したい」「キャラクターを描いた作品を展示してもいいか」「作品を買いたいと言われたがどうしたらいいか」など計13件の相談対応事例を掲載してきました。

今年度の特徴として、作品の二次利用や売買に関する契約書や金額設定に関する相談をよく受けたことから、今回はそのような相談の対応の流れを整理しました。

事例1 / 作品の二次利用や売買に関する契約書の作成について

相談者＝障害福祉施設 X

[相談内容]

「利用者の作品について、Y（個人）から画像を使用したい（あるいは作品を購入したい）との希望があった。利用者側に確認したところ応じるといった回答が得られたため、手続きを進めたいが、手続きをする際に気をつけることはあるか。契約書を作成したいがどうすればいいか。」

[対応の流れ]

作品の著作権や所有権の帰属先が整理されているか確認する。

滋賀県が策定した「障害福祉サービス事業所の造形活動における作品の著作権等保護のための指針～著作権等保護ガイドライン～」(滋賀県ウェブサイトからダウンロード可能)をもとに、作品の著作権や所有権について説明します。Xの活動で制作された作品を施設内でどのように扱うかについて、利用者との間で合意が取れているかを確認します。合意が取れていない、あるいは口頭での確認のみであれば、きちんと書面を取り交わすことをお勧めし、上記の著作権等保護ガイドラインに掲載されている「作品取扱規程」の様式が参考になると案内します。

(この事例では、書面での確認はできておらず、著作権も所有権も利用者本人にあり、Xは利用者の窓口を務めていると仮定します)

利用者側の意向について確認する。

利用者側に確認済みということですが、それは利用者本人か利用者の家族、あるいは後見人の回答なのかを確認します。利用者自身がどのように自分の作品を扱われるか十分に理解していて、言葉や指さしなどで明確に表示されていれば問題ありません。もし判断能力が十分でなく意思確認が難しいようであれば、本人が意思決定できる環境の設定や方法を検討して丁寧に対応する必要があります。後見人がいる場合には、後見人から許可を得なければいけません。本人の意思確認に加えて、家族への説明や確認も行っておくことが良いでしょう。

契約書の作成について

口頭での確認の場合、認識や解釈の違いからトラブルが起こる可能性が高いため、作品画像の使用であれば著作物利用許諾契約を、作品の購入であれば作品売買契約を結ぶ方法もあると案内します。アイサで過去に対応した時に入手した契約書の様式があるため、それをあくまで参考として提供し、今回のケースに合う内容に加筆・修正して使うこともできると説明します。また、文化庁のウェブサイト

「誰でもできる著作権契約マニュアル」が閲覧できることも伝えます。法律の専門的な内容になる場合には、弁護士や弁理士への相談をお勧めします。(①地域の弁護士会に連絡して、知的財産権に詳しい弁護士を紹介してもらう。②各自治体で設定されている無料相談窓口があれば案内する。③アイサで定期的に相談している弁護士に聞くこともある)

[対応のポイント]

- Xと利用者とYの間でできるだけ事前にコミュニケーション（なぜ画像を使用したい、あるいは作品を購入したいのかなど）を取っておくことが重要。相手の思いや人となりが分かることで、安心して手続きをすることに繋がる。
- 利用者の意思確認については、支援者や家族など複数の人がそのプロセスを共有し、どのように確認を取ったか記録に残しておくが良い。
- 契約書を作成する場合には、弁護士や弁理士に相談することが望ましい。

事例2 / 作品の二次利用や売買に関する金額設定について

相談者＝障害福祉施設

[相談内容]

「利用者の作品について、Z（個人）から画像を使用したい（あるいは作品を購入したい）と希望され、利用者も画像の使用（作品の購入）について進めたいと言っている。契約書も作成して利用者とYの確認も終わっているが、使用料（販売価格）がまだ決定していない。どのように決定すればいいか。」

[対応の流れ]

利用者もしくはZから希望価格が出てきているか確認する。

作品の価格は両者の合意の上で決定されるものなので、この金額にしないといけないというものはありません。まずはどちらかに希望額があるか確認し、もしあるようであればその金額で相手方に打診することになります。たまに、作者側から「作品を使ってもらえて（買ってもらえて）有り難いから無償でも良い」と言われることがありますが、その際は作品の価値を正しく認識してもらうためにも一定の対価は受け取るほうが良いのではないかとお伝えしています。しかし、作品画像の使用に関しては、その媒体に掲載されることで多くの人に知られるメリットがあると考えて無償で掲載を許可されるケースもあるため、一概に有償であるべきとは言えません。相談毎に状況が異なるため、相談者の思いをよく聞き取り対応することが求められます。

参考となる価格例を情報提供する。

両者から希望価格が出てきていない場合、もしくはどちらから提案された額に不安や違和感がある場合には、アイサで知っている情報を参考にお伝えします。

作品売買について 単価表をまとめている団体もあるため、それらをインターネットから情報収集して参照します。また、アイサで過去に対応したケースでは、掲載内容、サイズや色（白黒・カラー）などによっても変わり、書籍や雑誌の掲載についても3000円から3万円程度と幅がありました。グッズへの使用の場合は、著作権使用料としてグッズ販売価格の3～5%程度の場合もあれば、20～30%に設定している団体もありました。

人材育成

芸術活動支援のためのプログラム 「障害のある人と美術や舞台表現を楽しむために」

今年度は、「福祉施設でどのように美術や舞台表現の活動をしたらいいのだろう」「作品を使ってグッズを作りたいけれど、どうしたらいいのかな」「作品をみせる、楽しむってどういうこと？」等の悩みや疑問を持っている方に体験していただける、計5回のプログラムを実施しました。



◦ **作品売買について** 以下の通りアイサで過去に聞いた金額設定の情報を伝えて検討材料にしてもらいます。

▷ギャラリー運営者から聞いた話

新人アーティストが初めてギャラリーで個展開催する際は1点5万円程度の値を付けることが一般的ということ

▷日本のアール・ブリュット展に頻繁に出展されている作者のケース

海外で展示される前は東京の画廊で300×400mm位の絵画を10万円で販売。海外展以降は25万円位の値が付いたが販売はしなかった（以降も販売はしていない）

▷初めて出展した展覧会がきっかけで作品を売買された方のケース

身体障害のある作者で、施設のアトリエ講師らに相談しながら、最終的にはご自身で145×190mm位の絵画を1万2000円、300×400mm位の絵画を2万2000円で販売することを決められたということ。

▷その他

作者の出展歴や作品の制作数、制作に費やす時間、材料費、今後その方が制作できる点数の見込みなどを考慮するのはどうかと伝えました。

[対応のポイント]

◦ アイサは中間支援組織のため、こちらから金額を示すということはなく、あくまで両者の合意によって価格は決定される。もちろん安い価格で良いということではなく、適正な価格に設定されるために、必要な情報を提供することが求められる。

◦ 販売価格については、様々な考え方があるため金額の妥当性を判断するには美術関係者の助言を得ることが必要である。

実施概要

芸術活動支援のためのプログラム

「障害のある人と美術や舞台表現を楽しむために」

展示技術に関する研修

「表現の“バイブス”をまんま“場”に
——愛のある展示空間を目指して」

日時=2018年10月2日(火)18:00~20:30
会場=ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、
奥村家住宅(滋賀県近江八幡市)
講師=横井悠(NO-MA学芸員)
参加者=11名

活動体験に関する研修(美術、舞台表現)

「小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー」
ナビゲーター=小暮宣雄(京都橘大学現代ビジネス
学部教授)
①京都市ふしみ学園 アトリエやっほう!!
日時=2018年11月8日(木)13:00~16:00
場所=京都市ふしみ学園アトリエやっほう!!
(京都市伏見区)
講師=中島慎也(京都市ふしみ学園支援員)
参加者=6名
②大津ワークショップグループ
日時=2019年1月12日(土)10:00~13:00
場所=大津市立やまびこ総合支援センター(滋賀県
大津市)
講師=清水美紀(打楽器奏者)
参加者=8名

作品鑑賞支援に関する研修

「みる・きく・さわる作品鑑賞会」
日時=2018年11月23日(金・祝)13:00~16:30
会場=ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、
奥村家住宅、第3区自治会館(滋賀県近江八幡市)
講師=広瀬浩二郎(国立民族学博物館 グローバル現
象研究部 准教授)
参加者=19名

権利保護に関する研修

「アート商品の開発や作品売買について」
日時=2019年1月25日(金)14:00~17:00
場所=草津市立まちづくりセンター研修室309(滋
賀県草津市)
講師=山崎慎也(ライフスペース・プロペラ或laboratory
管理者)、森下静香(たんぼぼの家/Good Job! セ
ンター香芝センター長)、平塚崇(北大津きぼう法律
事務所弁護士)
参加者=24名

展示技術に関する研修

表現の“バイブス”をまんま“場”に ——愛のある展示空間を目指して

講師=横井悠(NO-MA学芸員)

この研修では、NO-MAと奥村家住宅で開催していた企画展「以“身”
伝心 からだから、はじめてみる」の会場で、横井学芸員が講師となり、
講義やワークショップ、対話による鑑賞プログラムを行いました。参加
者は、作品が持つ魅力や個々の作品に合わせた展示方法を考え、最後は、
実際に作品展示を体験しました。

まず、展示の土台となる「場」について考えました。NO-MA1階は
「洗練されているイメージ」「都会的」等といった言葉が出ているのに対
し、2階では「お家みたい」「落ち着く」といった言葉が多く出るなど、
それぞれの「場」によって異なる個性があることがわかりました。

次に、出展者の草薙陵太さんの作品から感じるイメージ、作品から分
かる事実、その2つに分けて気付いたこと、感じたことを自由に話して
いきました。他の方の話を聞いたり、考えを深めたりするにつれて、共
通して抱くイメージや、最初の印象とは異なる作品の魅力に気付いてい
く場面もありました。「場」が持つ個性、「作品」が持つ魅力、それぞ
れの気づきを知った上で、展覧会のもう一つの会場である奥村家住宅へ移
動し、出展者の鎌田紀子さんの「作品」がどのように「場」を意識して
展示されているのかについて、さらに考えを深めていきました。

その後、作品を観る「人」に合わせた展示技術についてのレクチャー
がありました。観る「人」を意識することで、作品の配置やライティン
グが変わっていくこと、また、作品をより「人」に伝えるための素材と
して、作品を説明するキャプションや写真を使用した図解を作成する場
合があることなど、観る「人」を考えることで、展示方法も大きく変
わっていくことを学びました。

レクチャーの後は、作品を使って実際に展示体験
を行いました。グループごとに展示物と展示場所、
そして作品を観る人、それぞれ別のお題で考え、出
来上がった後は、グループごとの展示コンセプトの
発表を行いました。

それぞれの研修レポートを掲載します。
文=松井裕紀(事務局)



活動体験に関する研修(美術)

小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー

①京都市ふしみ学園 アトリエやっほう!!

ナビゲーター＝小暮宣雄(京都橋大学現代ビジネス学部教授)

講師＝中島慎也(京都市ふしみ学園支援員)

京都市ふしみ学園は、2008年に「アトリエやっほう!!」を開設し、ほぼ毎日アート活動を行い、数多くの作品が国内外で展示されています。まず初めに、中島支援員より「アトリエやっほう!!」の皆さんを紹介していただきました。どのような場所で、どのような活動をされているのか。どんな画材を使い、どんなモチーフを描かれているのか、実際に活動をされているところをひととおり見学しました。

その後は、二つのグループに分かれて活動を体験しました。

1つ目のグループは、版画にインクを付けて刷るという、実際に支援員が行う作業を体験しました。紙をニードルで彫って作品を作る利用者さんがいて、その作品にインクをのせて刷っていきます。版が紙ということもあり、1度か2度しか刷れないため、参加者の皆さんも少し緊張されていました。

もう一つのグループは、利用者の方と一緒に陶芸作品を作りました。集中して作業に取り組まれている利用者さんがいる一方で、製品ではない粘土活動を行う利用者さんもいました。その活動でできたものをアレンジして製品にされることもあるそうで、作業の間にもいろいろな話を聞かせていただきました。

休憩の後、それぞれのグループの活動を交代し、どちらも体験した後、あらためて講師の中島支援員より「アトリエやっほう!!」のこれまでの活動について紹介いただき、最後に、参加者の皆さんでの意見交換を行いました。



小暮宣雄(京都橋大学 現代ビジネス学部 教授)

1955年大阪市生、東大法学部卒。自治省入省後、23年間公務員。地域企画と財政関係を中心に、後半は文化政策や地域芸術環境づくりに関わる。各地の公共ホールにおいて、西洋クラシック音楽以外が必要だと感じ演劇やダンスを観、その有様を残すようになり、高じて、鑑賞者の目線とNPOを大切にすアーツマネジメントのあり方の研究へと広がる。

活動体験に関する研修(舞台表現)

小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー

②大津ワークショップグループ

ナビゲーター＝小暮宣雄(京都橋大学現代ビジネス学部教授)

講師＝清水美紀(打楽器奏者)

大津ワークショップグループは、10年以上前から打楽器演奏の活動を始め、即興性の高い自由でパワフルな演奏で、毎年糸賀一雄記念賞音楽祭で発表を行っています。

グループのメンバーは、到着した順にそれぞれが楽器を手にし、自由に演奏していきます。今回の研修では、参加者の皆さんにもその即興演奏を体験していただきました。最初は少し戸惑われている方もいましたが、一度楽器を手にすると、その後はいろいろな楽器を順に手にとり、即興演奏を楽しんでいただきました。自由に演奏をしながらも、それぞれの音を聞き、リードする人も移り変わっていきます。ワークショップグループのメンバーも、いつもと違う人がいることで、いつもと違う演奏がうまれたと清水さんがおっしゃっていました。

休憩をはさみ、それぞれソロの演奏を行う時間ではワークショップグループのメンバーに誘われ、ペアで発表をした参加者の方もいました。

最後に、参加者の皆さんで意見交換を行いました。「決まった曲の演奏ではなく、自由に演奏することの良さを感じた」「この活動が始まったころはどうだったか」など、参加者それぞれから自分たちの活動にどう活かすことができるかを考えた感想や質問が出ていました。



今回のワークショップツアーは、アーツマネジメントや文化政策の専門家である小暮宣雄さんをナビゲーターに迎え、開催しました。活動体験にも参加いただき、皆さんに声がけするなど、活動に参加しやすい雰囲気づくりをしていただきました。また、意見交換の際には、参加者の意見や質問にご自身の経験や専門家の見地からご意見いただき、議論を深めることができました。

作品鑑賞に関する研修

みる・きく・さわる作品鑑賞会

講師＝広瀬浩二郎(国立民族学博物館グローバル現象研究部准教授)

触れる作品、音声コンテンツ、点字や触図を多数用意した展覧会で、目が見えない人、見えにくい人、見える人で一緒に鑑賞を行いました。

参加された19名には、特別支援学校や盲学校、ろう学校の教員、作業療法士、福祉施設や文化会館の職員、そして一般の方など幅広くおられ、視覚障害のある方は4名いらっしゃいました。全体を5,6名の4グループに分けて、各グループにお一人ずつ目の不自由な方に入っていました。

講師の広瀬浩二郎さんから、無視覚流鑑賞について講義していただいた後、近くの公園で無視覚流体操「点・線・面」をして身体と心をほぐしてから、鑑賞会を行いました。

この鑑賞会では、目の見える方にも視覚を使わずに触覚と想像力をつかって鑑賞してみることで、目で見て鑑賞していた時との違いを感じてもらいました。

鑑賞の順番はグループによって変え、具体物と抽象物の鑑賞の比較を行ったり、触図に初めて触れる人が多いため、触図から作品をどれくらい読み取れるか、絵や文章で書き留めてもらったりするなどして、作品の鑑賞を深めてもらいました。

約2時間の鑑賞のあと、参加者と車座になって振り返りをしました。視覚障害のある方からは、「普段はできないような経験だった」「以前は美術館で働いていた。目が見えづらくなり、もうアートには縁がないと諦めていたけど、今日をきっかけに私のアート人生が再開した気がします」などの感想があがりました。



権利保護に関する研修

アート商品の開発や作品売買について

講師＝山崎慎也(ライフスペースプロペラ)

森下静香(たんぼの家/Good Job! センター香芝)

平塚崇(北大津きぼう法律事務所弁護士)

近年、障害のある作者のアート作品をグッズにしたり、ウェブサイトで紹介したり、作品の販売をしたりすることが増えてきています。この研修では、既にそのような取り組みをされている方、これからグッズを作りたい・販売したいという方々に参加していただきました。

前半は既にアート商品の開発や販売に取り組んでいる団体の実践報告をしていただきました。

地域の工芸品、職人とのコラボレーションでアート商品を制作してきたライフスペース・プロペラ戒(えびす) laboratory(兵庫県)では、アパレル関係の仕事をしてきた山崎慎也さんが質のいい商品をつくるために考えていることを丁寧にお話しいただきました。

Good Job! センター香芝(奈良県)の森下静香さんからは、センター開設の背景に始まり、3Dプリンターやレーザーカッターなどの技術をつかった最新のグッズ制作方法も紹介いただきました。

また、グッズ制作をするにあたって、利用者施設でどのように契約をしているかについても実際の書面を配布してそれぞれ説明いただきました。

お二人の発表の後、グッズ制作グループワークを行いました。手軽にとりかかれる方法として、オンライン発注できるグッズ制作サイトの紹介をし、作品カードをつかってどのようなグッズをつくるか考えてもらうワークを行いました。

「この作品の良さを引き出すには、こんなグッズにするのが合いそう」「ただプリントするだけでなく、こんなデザインを加えたら売れるグッズになりそう」というイメージを膨らませてもらった後、北大津きぼう法律事務所(滋賀県)の平塚崇さんから、グッズ制作に関する著作権や所有権の基礎講義をしていただきました。

最後に、参加者全体で質疑応答や意見交換の時間をもち、直接、講師の皆さんから答えていただきました。グッズ制作や販売への関心はとても高く、今後も継続して取り組んでいくべき内容だと感じました。



アンケート結果

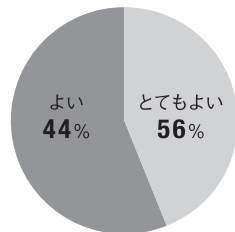
※感想などのコメントは抜粋して掲載

[技術研修]

表現の“バイブス”をまんま“場”に
——愛のある展示空間を目指して

(回収率81.8%)

▷満足度



▷施設の造形活動に反映できそうなことはありましたか

- 見る方のこと、作者さんの印象、日常のことを考えて展示したいです。
- 同じ作品を見て感じたこと、作品から分かる事実を話し合うことで、自分の最初の感じ方とはまた違った見え方が発見できるのは、普段の活動にも取り入れて現場で試してみたいと思いました。

▷感想

- 自分のところの利用者さんの作品を飾るなら、どんな風がよいだろう…とイメージをすることができて良かったです。
- 対象を意識することでこんなにも見せ方が多彩になるのかと思い、驚きました。

▷今後、アイサに企画してほしい研修内容がありますか

- キャプションの書き方、作り方をみんなでやってみたいです。
- もっと具体的な展示方法（作品持ち寄りでも）

[活動体験]

小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー

①京都市ふしみ学園 アトリエやっほう!!

(回収率100%)

▷満足度



▷施設の造形活動に反映できそうなことはありましたか

- スタッフが作品にどれくらい声かけをしているのか。自由に描いている様子に安心しました。いろいろな画材の選び方なども、参考になった。
- アート系の事業所だから必ずアート活動をする、ではなく、活動できない方でも、来てしゃべったりするなど、見守って、長い目で見ていくことが大切だなと感じさせられました。

▷感想

- 短い時間に、大変濃い内容の研修だった。サポートされているスタッフの方々の言葉がとても印象深く、勉強になった。
- どのような環境で作品が生まれているのか、スタッフとの関わりなども含め、現場の雰囲気を共有できて感激しました。

▷今後、アイサに企画してほしい研修内容がありますか

- 今回のように活動の現場を訪問することができる研修に参加したい。
- 美術館やホールへのアクセス支援について。

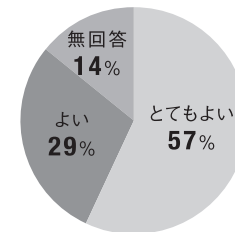
[活動体験]

小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー

②大津ワークショップ

(回収率87.5%)

▷満足度



▷施設の造形活動に反映できそうなことはありましたか

- 自分の表現を安心して好きなだけできること、そこから他の人との音の重なりを感じて新たな表現が生まれたりすること、そして、そのことを「楽しい」と思う仲間がいることは素晴らしい時間だと思います。
- 方法論を学びたい、と思って参加したのですが、それよりも「いかにコミュニケーションの中で生まれてくるものを大事にするべきか」ということを学べたように思います。

▷感想

- 参加されている方が自然に演奏して、気持ちよさそうだったのが印象的でした。音でのコミュニケーションもとてもいいですね。

▷今後、アイサに企画してほしい研修内容がありますか

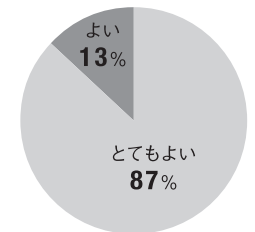
- 常にリスクマネジメントの問題は避けられないと思います。実際のところをお聞きしたい。
- 今回のような表現活動と音楽療法、音楽教育（活動）の関わりと、それぞれの意味を事例から考えたり、体験したりするようなことができればうれしいです。

[鑑賞支援]

みる・きく・さわる作品鑑賞会

(回収率84.2%)

▷満足度



▷施設の造形活動に反映できそうなことはありましたか

- 見るという感覚にだけ頼らないことで、日頃とは異なる見方、違う世界が広がるという感覚「感じ方は一つだけではない」という大切なことをこの研修で再認識させてもらいました。
- 「みる」「きく」の体験は結構あるけれど「さわる」体験はなかなかできない。造形物をさわって普段の使用しない感覚が活性化するので文化の企画にはできるだけ触覚を取り入れたいと思いました。

▷感想

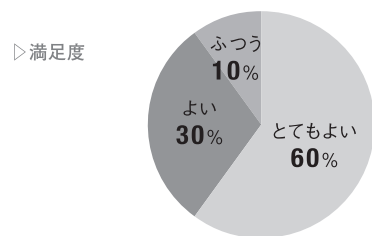
- 普段、「視る」ことにとっても依存して生活しているということも強く感じ、今後は自分の触れる感覚も大切にしたいと思います。
- 視覚障害をお持ちの方への関わり工夫も学べた。同じものを再度見て感じ方も変わっていた。さわった絵を再現するのがおもしろかった。

▷今後、アイサに企画してほしい研修内容がありますか

- みんなで一つの作品を作り上げる（視覚障害者もいっしょに作れるもの）
- 高次脳、認知症の方との芸術鑑賞

関係者の ネットワークづくり

[研修]
アート商品の開発や作品売上のノウハウについて
(回収率83.3%)



- ▷施設の造形活動に反映できそうなことはありましたか
- 意識をしていない中で、作品の作りかえ（ちょっとしたレイアウト、デザイン）などをしてしまっているところもあり、勉強になりました。
 - 作品を製品化するときのネットの利用の仕方などが分かり、よかった。
 - 商品開発や販売など多岐にわたって参考になることばかりでした。知らなかった単品発注などが可能だと分かったので、試験的にも行なっていきたいです。

- ▷感想
- 現実に商品化できる方法や法律のことなど、知識として意識できる内容でよかった。
 - 本人の意思確認についての皆さんのコメントには、大きくうなずくところがありました。最終的に、ご本人さんが心地よく、その方の素晴らしい表現が認められることで、本人が喜ばれるようでありたいと思います。

- ▷今後、アイサに企画してほしい研修内容はありますか
- IoTとFab。企業やデザイナーとのマッチング、話を聞く場

- 商品化までのより詳しいプロセスや実例。販売後の反響や、そこからの進展などをじっくり見たいです。
- 利用者の方の創作の「芽」みたいなものを展開させるにあたって、事例などが知りたいです。画材の展開など。

1. 協力委員会

- [協力委員]
- | | |
|-------|--|
| 石黒 望 | 滋賀県作業療法士会副会長、医療法人恒仁会 近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター部長 |
| 北村成美 | ダンサー・振付家、糸賀一雄記念賞音楽祭湖南ダンスワークショップディレクター |
| 峪 卓宏 | 近江八幡市福祉子ども部障がい福祉課 |
| 城 奈緒美 | 近江八幡市総合政策部文化観光課副主幹、文芸セミナーヨ専属オルガニスト |
| 田平麻子 | 滋賀県立近代美術館主任学芸員 |
| 寺崎文彦 | 滋賀県立野洲養護学校教諭 |
| 西川澄子 | 滋賀県県民生活部文化振興課主幹 |
| 原 正雄 | ボーダレス・アートミュージアムNO-MAボランティアスタッフ
株式会社ワコール社友会ワコール倶楽部代表幹事 |
| 平塚 崇 | 北大津きぼう法律事務所弁護士 |
| 松尾慎一郎 | 第15回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員長(社会福祉法人悠紀会 につこり作業所作業支援員) |
| 山田智大 | 滋賀県健康医療福祉部障害福祉課主任主事 |

- [開催概要]
- | | | | |
|----------|---|----------|--|
| 第1回協力委員会 | 日時=2018年8月24日(金)14:00~16:00
会場=安土コミュニティセンター 視聴覚室
出席者=10名、事務局
議題=昨年度の事業報告、今年度の事業計画、意見交換 | 第2回協力委員会 | 日時=2019年1月10日(木)10:00~12:00
会場=安土コミュニティセンター 視聴覚室
出席者=11名、事務局
議題=進捗状況の報告及び意見交換、今後の事業予定 |
|----------|---|----------|--|

- 第3回協力委員会
- 日時=2019年3月27日(水)14:00~16:00
会場=安土コミュニティセンター 視聴覚室
出席者=8名
議題=事業報告及び意見交換

2. ザ・ベストワンショー〜創作ワークショップ&ステージ

※概要はP.27参照

協力委員会議事抄録

第1回議事録 / 意見交換

… 相談対応

協力委員 アイサが舞台芸術分野も相談支援の対象としていることが、舞台芸術関係の方に情報として伝わっていないと思われる。(施設側ではアート活動に関わる講師に対して、ボランティアで来てもらうという意識が一般化していることについて)講師への謝礼に関しては、自分達の立場からは非常に言いにくいことであり、施設側との話し合いが必要なものであると感じているが、施設側と講師の間に入って、話をつなげてくれる方がいれば、施設の抱えている問題や背景、講師側の意向を伝え合うことがスムーズになるのでは。また逆に、提示された条件の中でどんなことができるのかを考えることは、新しいクリエイションを生み出すきっかけになるのではと感じている。アイサで行っている人材育成の研修会でも、その題材を扱った研修会を開いてもよいのではないかと思う。

また、障害のあるダンサーでも、振付やダンスを教えることができる人もいるが、その方達が講師を務める場合も交通費や謝金が発生する。彼らをボランティアではなく、芸術家として捉える環境が整っていけばと思う。彼らには第一段階として表現をしたいという意志、第二段階としてそれで生計を立てたい、プロになりたいという希望がある。

事務局 リニューアルするアイサのリーフレットにも、施設での創作活動に関わりたいと希望するアーティストとの中間支援を行うことを記載しているため、広めていきたい。

協力委員 関わりを持ちたいと思っているアーティストの方はいらっしゃると思うので、どのような体制で、どのような予算で進めていくかは課題だと思う。発表の場を考える場合も予算がかかることであると思うので、今後、国や県の補助で、施設や表現したいと思っている障害のある方、どちらも満足がいく、アート育成のような形を目指していければいいと思う。また、施設での美術活動と舞台活動では、美術活動の方が進んでいると思うので、発表の場等では、美術と舞台芸術をからませるようなことをしてもよいのではないか。音楽を聴きながら絵を描いたり、会場に音楽的な要素や創作ダンスを組み込むなど、コラボレーションの様な形でできれば幅が広がるのでは。

協力委員 コラボレーションしたくても実際は誰に頼めばいいのか分からないというのが現状だと思う。私達の場合は舞台をつくる時、衣装や背景、オブジェなどを置きたいと思っても、そのような方との出会いがないため、自分達で探すことになる。アイサのホームページで、(どこまでの情報を公開するかという問題はあるが)滋賀県内で活動している作家などを紹介する作家紹介のようなページをつくり、探している人と作りたい人の出会いの場などができればいいのではないかと。

事務局 アイサのウェブサイトをリニューアルしているところなので、そのような部分もまた相談させていただきたい。

… 人材育成

協力委員 このような場での弁護士としての自分の役割は「これは危ない」「止めたほうがいい」ということが多く、作品を二次利用してグッズを作って売るとは、私の立場からいうと一番危険な行為である。だが、今までアイサの研修会を担当させてもらって、グッズを売る話を一番面白いと感じた。作品が売れることは、作り手の本人からすると、嬉しく意欲が湧くことであり、商品が売れることは利益につながる。今回担当する研修もそこに通じる部分があると思うので、恐いけれど、楽しみである。

第2回議事録 / 意見交換

… 相談対応

事務局 作品売買について、本人の意思確認ができない場合の確認方法と意思確認ができなかった場合の売買についての可否、また作品売買についてどのような契約を結ぶか、どのようなことに気を付ければいいのかという相談を受けている。

以前アイサでおうむ返しで答えられる方の意思確認について相談を受けた際、アート活動の担当者に作者が描いた作品を自分の手元に置いておきたい様子があるかどうかヒアリングを行い、ご家族にも説明に行く等した。ご本人に対しては、作品を目の前に置き、購入希望の方にも来ていただき、販売の意思を確認すると「あげます」と返答があり、施設職員や家族とともにその様子が確認できたため売買が成立した。相談者にはこの事例を伝えているが、本人の意思確認について迷うところもありご意見を伺いたい。

協力委員 すごく難しい問題で、明確な意思確認をしたということを残すという意味では、できるだけことはされていると感じる。問題はないが、絶対それで大丈夫ということとは言えない。アイサの立場としてもそこまでやってあげれば大丈夫ということとは言えないだろう。ただ、絶対大丈夫でなければ売買できないかということもおかしいため、できるだけ確認をしてやれるだけのことをやって欲しいと思う。それらの対応でいいと思うが、弁護士や裁判所によってはそれで売買の意思があったとは言えないという方もおられると思う。理由は、その人を保護するためである。物を売るということは、売ったものに責任を問われることがあるため、そこまで考えて契約したのかと問われると、辛いところもある。でも、私としてはそこまでされていたら意思確認ができていると考える。

事務局 障害福祉サービス事業所を利用するにあたっての意思決定支援ガイドラインを厚生労働省から示されていて、その考え方を広めていこうとしている。それはあくまでも障害支援サービスを受けようとすることに限定しているが、本人が判断できる環境をできるだけ整えて、周りで本人のことを良く知っている人間にも十分話し合ってもらおうという近いことをしているので、そちらも参考にしたらいいのではないかと。

… 人材育成

協力委員 アイサの研修会の中で、美術の鑑賞の仕方のワークショップや研修が盛んであるが、舞台芸術に関してもあった方がいいのではと考えている。ダンスであると、みんなで同じことができないとダメなんじゃないかと思ってらっしゃる施設の職員や学校の先生、保護者の方がおられるが、違うところに良さがあり、彼らにしかできない舞台のあり方が音楽やダンスにはある。見たことのない人にはばらばらに見えるため、そこに色々なジレンマがあるのではないかと。音楽祭やダンスの本番を見てもらうだけでなく、丁寧にこの人とこの人の違いがあるから全体として面白いなど、丁寧なレクチャーや体験を通して、もう一步深いところを見ていただければいいのではないかと思う。

障害のあるなしに関わらず面白い要素だと思うが、実際に舞台を作る時に、バックステージを見せるような、たとえば衣装をつくることにしても、体の個性とか可動域の違いによって同じ衣装でもこれだけ作り方が違うなど、舞台1つ作るのにも色々な知恵があって、そういうものを色々見ていただくだけでもいい。舞台に出るつもりはないけれど、ドレスは作ってみたいとか、逆に刺繍とか物を作っている人たちが、(小道具や衣装として)自分の作ったものが舞台にあがって踊っていたり奏でていたりとか次の展開に広がっていければいいのではないかと考えている。

… 情報収集・発信

協力委員 美術関係の作品紹介では、作る過程の動画をアップしたりなどもあるが、舞台芸術の関係に力を入れていくなら、発表や舞台芸術は動くアートというか、動いているものを見ていただくことがすごく効果的で、リハーサル風景であったり、「公演に出ますので来てね」と手を振ったりする動画的な展開をするといい。舞台の面白さは紙ベースでチラシでありますよというだけでなく、顔の肖像権や音楽の著作権の兼ね合いも出てくるが、あってもいいのではないかと思う。

第3回議事録 / 意見交換

人材育成

協力委員 今年度の権利保護研修は、結構色んなものを盛り込み過ぎていた。ただ、その一方ですごくいい企画が2つくらいあった。グループワークで大きな紙に書いて、作品から何が作れるか考えましょう、という企画はすごく盛り上がっていた。ところが、頑張っ書いてもらったのに、発表してもらう時間がなかった。みんな発表するのを楽しみにしていたのではないか。描いた絵を見せながらこんなカバンを作るとか、説明したかっただろうと思った。他の企画を全部カットしても発表の時間をとった方が良かったのではないかと思った。

あと、イメージとしてどういうグッズができるかというソフト（グッズシュミレーター）を使用する企画にも、みんながすごく興味を示していたので、この2つで時間を半分とっても良かったのではないかと思った。

事務局 今回3時間あるので、どうやって組み立てようかと考えていたが、結果的に時間が足りなかった。去年まで研修会を10回開催して、権利だけの研修を北部と南部で2回、グッズに関しても研修を実施したが参加者数が定員を切っていた。今年度は回数を少なくして、周知を前もってしたが、結果的にアンケートでは2回に分けてもっとゆっくり時間を取って欲しかったというのがあったので来年度に活かしたい。

（他府県の事例より）実際に研修に参加することで、グッズができていくという研修があってもいいと思った。その中で、権利のことについても説明する時間を入れてもいいのではと思う。

相談支援

事務局 相談される方の県外・県内の回数が、去年同数程度になったのは、他の都道府県にも支援センターが設置された影響ではないかと推察していたが、今年はまた元に戻った。どんな背景があるかと考えてみると、いくつか考えられることがあり、一つはこうした活動が更に知られたことが大きいだろうと思っている。あとは、支援センターが全国にあることを紹介するパンフレットを作成して配布したということ

があり、それを見て連絡をくださる方がいた。また、他の都道府県にも同じような支援センターがあると知っていても、連絡先として載っている全国連携事務局にかけられたり、最寄のセンターに相談してみたが、もう少し知りたいことがあり全国連携事務局を担っているアイサにもかけたということがあった。今後も全都道府県に支援センターが設置されたとしても、このような県外からの相談は変わらずにくるのだろうと思う。

あと、相談支援ということであると、障害福祉の世界では、サービスを利用するとか、生活の困難さとかに寄り添う役割として相談支援専門員がいるが、アイサはアートに特化して相談を受けている。社会福祉法人にいるアートの知識がある人がこの担当をすればよいというのではなく、相談支援専門員に必要な相談者のニーズを読み解く力というものすごく重要だということを改めて思っている。

最近、当事者の方からの相談が続いており、今回配布した資料には簡潔に「制作に関する支援を受けたい」とか、「無料で受けられる研修会を教えてください」というところにたどり着いているが、最初にくる相談内容としては、「至急のSOSです!」といった形で相談してくる方もいる。メールでご自身の生きづらさを説明しているのだが、結局この方は何を望んでいるのかということがその相談メールでは分からないということもあり、表面に書かれていることだけで対応しては、やはりその方の満足や願っていることへの解決にも繋がらないと思う。

権利の知識だけではなく、相談を受けるという基本的なスキルも、今後全国のセンター向けの研修でやっていく必要があるのではないかと思う。

協力委員 県では、今年2月に県内の就労移行支援事業所、就労継続A型、B型、生活介護、自立訓練、就労定着支援、入所施設の295事業所を対象に、造形活動・表現活動のアンケート調査を行っており、現時点で回答率は38%で112事業所から回答があった。

事業所の中で造形活動の課題を聞いた項目では、「商品化、展示の仕方、所有権の問題、専門的な知識が乏しい」等に困っているとの回答があり、今後は更にアイサのことを知っていただき、相談してもらえるように周知の仕方とも考えていく必要があると思う。

作品の著作権等について意識しているかという項目では

「していない・どのように意識していいかわからない」という回答があった事業所もあり、知らず知らずのうちに権利侵害をしているという状態はよくないと思った。また、1月の売買取に関する研修には県外の方や福祉関係者以外の方も多く参加されていた。今後も研修を実施していただき、幅広く色んな方に来ていただくことで理解等が進めば良いと思う。

協力委員 アイサのことは知っているつもりだったが、よく考えると相談すべきことは結構あったのに、一度も相談してこなかったことに気が付いた。美術作品やグッズに対しての権利保護や契約ということは分かりやすく相談される方も多と思うが、舞台公演に関することでは、どういう契約を結んでどのように経費のこととかを折衝してやるかという悩みもある。

今までは私が個人的に経験して知っている範囲でやっていたが、活動の幅を広げてきて、団体としてこれから充実した活動をしていこうという時に、団体の規約を作ることも大事だと感じている。実際に外部との話し合いだったり、契約を結んでいくというところできちんと知識を持っていないと、結局メンバーのことを守れないような状況になったりするのではないかと感じている。これまでは、顔の見えている方たちとの繋がりの中でできていたことであるが、私達の公演を観たことがないけれど、評判を聞いてやりませんかという話を始め、色んなお問い合せをいただくようになってきている中で、内部もきちんと整理していかないといけないし、外に向けての知識を勉強しないといけないと思っている。

例えば、契約書とかどのような手続きを踏めばいいのかわからないという状態で、こういう書式でこういうことを作るというということはあるのか。

事務局 アイサに相談が来た時には、作品売買取は契約書がないと売買取できないわけではないが、アイサにくる相談の全てが障害のある人が作っている作品を対象としたものであり、作品を売買取することやそれによって対価が得られるという判断ができない作者もいるので、後々それで本人に不利益が出てきたときに、本人がそれはちょっと止めてほしいということを書けないため、売買取をする時点できちんと書面でお互いに分かるものを残したうえで、契約をされた方がいいのではないかとお話ししている。

前にアイサに、作品売買取の契約書を作り、こういう契約書を使おうと思っているがどうかという相談があったため、弁護士に意見をもらいつつお返しした様式がまだ残っている。もしその様式を欲しいという方がおられたら、過去にこういった様式を作ったところがあったと参考にお渡ししている。

協力委員 契約を結んだからといって、すべてのリスクがなくなるわけではない。また、契約書式を紹介することによるアイサ側のリスクもある。文化庁のウェブサイトや、舞踊関係までカバーできているか分からないが、美術関係に関しては契約書作成マニュアルとして詳しく解説しているページもあるのでそれを紹介するというのも良いと思う。



ザ・ベストワンショー ～創作ワークショップ&ステージ～

このイベントは、障害のある人やご家族、福祉関係者、美術関係者、地域住民等が集まり、障害のある人の絵や陶芸等の造形表現や演奏、ダンス等の舞台表現を通して交流し、これらの表現の魅力を語り合い、共感しあえることを目的に開催しました。

第1部、第2部の開催レポート、第3部の交流会の様子をまとめています。

〔開催概要〕

日時＝2019年2月23日(土)13:30～16:30

会場＝酒遊館(滋賀県近江八幡市)

参加者＝99名 ※第1～3部までの実人数

(出展者・出演者17名、実行委員9名、ing展アドバイザー1名、ご家族12名、ボランティアスタッフ5名、一般55名 一般の内訳：参加施設の利用者、施設関係者、当日参加者等)

〔内容〕

第1部 創作ワークショップ

〈出展者と一緒に創作体験〉

- 「バウムマンをつくろう」山本恒(甲賀福祉作業所)
- 「ペットボトルで作品づくり」太田浩一(信楽青年寮)
- 「おぎのくんをつくろう」SHO(滋賀県立近江学園)
- 「好きな単語で作品づくり」木田隼人(甲賀福祉作業所)

〈創作を楽しむワークショップ〉

- 「グルーガンで作品づくり」塚本智映(アトリエひこうきぐも主宰)
- 「帽子惑星」野原健司(美術家・ing展アドバイザー)

第2部 ステージ

- リーダーとしゅうへい～あんぱんとコーラ～(楽器演奏)
- 湖南ダンスカンパニー(コンテンポラリーダンス)

第3部 交流会

イベントレポート

文=高山円(事務局)

第1部の創作ワークショップでは、「第15回滋賀県施設・学校合同企画展ing…～障害のある人の進行形～」(通称ing展)出展者と一緒に創作体験できるブースを4か所、創作を楽しむワークショップブースを2か所実施しました。

出展者と一緒に創作体験ができるブースでは、4名の作者が普段の素材や道具を使用した創作を行い、参加者にはこちらで用意した素材で作者の作品を模した創作を行っていただきました。

ing展アドバイザーの野原健司氏(美術家)と参加施設のアトリエひこうきぐもの塚本委員による創作を楽しむワークショップブースでは、綿棒を使って作る「帽子惑星」づくりと、グルーガンを使いカラフルなグルーで作るブローチづくりを行いました。

開始と同時に参加者一人ひとりが夢中になって手を動かし、同じものを作っている、個々の表現が

つまったこだわりのある作品が作られ、できあがった作品を嬉しそうに手に持ったり、頭にかぶったりとそれぞれの力作を見せ合って喜ぶ姿もありました。また、作者を交えて創作体験をすることで、より作者を身近に感じられたとの声もありました。

第2部のステージでは2組の発表がありました。一組目は、2名のユニット「リーダーとしゅうへい～あんばんとコーラ～」で、それぞれがソロでミニハープとハンドチャイム等の楽器演奏をされ、音楽療法士の伊藤美実子さんのピアノ演奏とのハーモニーや、伊藤さんの歌での投げかけにしゅうへいさんが「あ～あ」とピアノの音色に合わせて歌うように答えられるセッションに会場が引きこまれるひとときとなりました。

「湖南ダンスカンパニー」は、1年かけて創作された演目「うみのはた」を会場である酒遊館に合わ

せた形で発表されました。会場の天井には、野原氏の提案による青やシルバー、オーロラに煌めくモールの装飾を施していましたが、ダンスに使用された青い布を宙高く放り投げたり、振り上げたりするたびにモールが揺らめいてうみの波を思わせました。ダンスの中でも、偶然布がモールに引っかかることで新たな動きもあり、美術装飾を活かしたステージで、ここでしかない表現ができあがりました。

最後は、湖南ダンスカンパニーのディレクターである北村成美さんの呼びかけで、「リーダーとしゅうへい」さんら出演者と来場者もステージに混ざり、即興ではたを振りながら一緒に踊りました。最後にみんなで決めポーズをとることで、会場が一体となったエンディングとなりました。

第3部の交流会では、北村さん、野原さん、伊藤さん、展覧会実行委員、出演者やご家族が、障害の

ある方のアートやパフォーマンスへのそれぞれの思いを語りました。

また、このイベントの飾り付けには、参加施設である能登川作業所の利用者2名の方にイベントタイトル「ザ・ベストワンショー」の文字を書いていたこと、ステージ出演者名・演題は、湖南ダンスカンパニーの出演者に当日に書いていただいたことで、会場にアクセントとそれぞれの繋がりを持つこともできました。

施設や団体の枠組みを越えて、障害のある方とその活動を支援する支援員、家族が一同に会するイベントとなり、また、美術と舞台も含めて双方向に繋がる可能性が感じられました。



第3部の交流会では、この日のイベントで自分の中のベストな瞬間や感想、障害のある人の表現活動に携わるそれぞれの思いを、出演者、家族、福祉施設職員、美術家などがさまざまな立場から語った様子を抜粋してまとめています。

——ザ・ベストワンショーを通して出会えた方々と、同じ時間を楽しく共有できたことを振り返りお話しができたと思っています。会場の装飾やワークショップを担当してくださった野原健司さんに、今日のベストな瞬間をお話いただけたらと思います。

野原 いやもう、いっぱいありましたね。皆さんすごくエネルギーが高くてにぎわって。みなさんいい顔をされていて、作ったり表現するって素晴らしいなって、特にダンスにすごい感動しました。キラキラしている瞬間が見れて。

——湖南ダンスカンパニーの木村まゆみさんはいかがでしたか。

木村 あのね、今日はね、ここで踊れて嬉しかったですわ。またね、あちこちでね、活躍して踊りたいと思いますわ。ほんでね、湖南ダンスワークショップのみんなはね、元気で明るくてね、いい仲間たちです。ほんで、しげやん（※北村成美ディレクター）と一緒にまたみんなであちこち一緒に踊りにいきたいですわ。

——「リーダーとしゅうへい」は今日が初ステージだったようで、いつも一緒に活動されている伊藤実子さん（音楽療法士）にも今日の振り返りをお願いします。



伊藤 いつもはお二人が、場所が変わったり、知らない方が見学に来たことに、どうしようとドキドキされるのを見てきたので、今日もそれを心配していたのですが、一番私が、ドキドキして。その分、リーダーとしゅうへいさんが、ここぞとばかりにご自分の音楽を、音を、歌をここで披露されて、それを見て私もまたほぐれました。音楽の中で交流ができたことと、それをみなさんとこの空間で共有できたのは、私にもすごく貴重な体験となりました。

——リーダーとしゅうへいさんの音楽活動はどれくらいになるんですか。

伊藤 私が関わる前から音楽担当のスタッフと二人は一緒に音楽をしてきたんですけど、活動の部屋に入るところからのスタートだったんです。ずっと紙をビリビリと破って、音楽いらないって仰ってみたいなんですけど、ああやってご自分で、音に出会って、楽器に出会って、それをまた私や他のメンバーと音楽で何かできるということを彼自身がゲットしていかれたのかなという感じです。

——ing展でボランティアスタッフとして来場者の対応をしてくださった竹間義昭さんも今日来てくれま

した。

竹間 私は今まで、こういった活動をやったことがなかったんですよ。それで、興味を持って観させていただきました。みんな、パワーがありすぎて、集中力があって圧倒されます。もう、それだけです。でも、参加させていただいて、良かったと思います。

——色んな人を巻き込んでいく力があるのと、今日の公演を観ながらすごく感じました。湖南ダンスカンパニーディレクターの北村さんはいかがでしたか。

北村 このベストワンショーはすごく湖南ダンスにとって重要なステージで、たとえば、（木村）まゆみさんって、こんなにたくさん言葉を喋ったのを聞いたのは初めてなんです。湖南ダンスのことについてこんなに思ってくれてるんやって今日初めて聞かせてもらって感激しています。

あと、一番大きかったのは、（田中）佑芽さんが入ってくれたことですね。その時（3年前の同様のイベントのステージ発表）に湖南ダンスも出ている、そこに飛び入りで一緒に踊ってくださっていて、そこから湖南ダンスにも来てもらうようになって、今では佑芽さん、まゆみさんは外せないスターという



か、ここで出会って新しい人たちが入ってきて、湖南ダンスに新しい波を起こしてくれている感じがあって。

「見てー!!」っていう動きは、色んな作品の中で出てくるんですけど、今日は佑芽さんがリハーサルの時に、表向きの「見てー!!」というのを初めてやって、これは絶対裏も表も両方やった方がいいなって。実は今日出たメンバーの方がちょっと勝ってるんですよ。作品が進んでしまったので。なので、今度のパリ公演は男の人ばかりのメンバー編成になるんですけど、彼らにこの酒遊館で進化したものを伝えて、さらに進化したらいいなと思っているんです。そうやってね、行く人行かない人、出る人出ない人とかではなくて、湖南ダンスのメンバーというのは、いつも31人で進んでいっているというか、一步一步前に進んでいる感じをすごく今日思いました。

——お話に出てきた田中佑芽さん。今日の感想や湖南ダンスに入られてからの気持ちをお話しいたいてもいいですか。

田中 ワークショップを見学させてもらって、それで私、隅っこで踊ってたんですけど、しげやんと一緒に踊ってくれたのがすごく嬉しかったです。そこから、3年前かな、4年前かな、4月から正式に参加させていただくことになって。

——今日は、ing展の出展施設の支援員さんもいらしているんですけど、今日の感想とか作品を出展してみても作者さんの様子とかを聞いていければと思います。

香月 甲賀福祉作業所の香月剛です。芸術や美術と

発表等の
機会創出

かっていうものには本当に初めての参加で、こんなにパワーがあるんだなっていうのが、正直な感想です。うちの利用者さんは今日2名来られていて、バウムマンと文字を描かれていたんですけども、保護者の方がこの姿を見るのが初めてで。木田隼人さんに関しては、1時間集中してまだ帰りたくないと言って親御さんもびっくりしていたので、そういった姿を見ていただけたのが一番良かったなと思っております。

久保田 ステップアップ21の久保田匠です。僕自身はing展4年目なんですけど、こういうステージを見に来るのは初めてで、ダンスを見せてもらってすごいなって。うちでも、音楽をやっているんですけど、ダンスという型に囚われないっていうのが、すごい参考になって。こういう自由な発想というのが、芸術という概念的なものはあつてないようなものなんやなっていうのをすごく感じました。

塚本 今回3回目のing展の出展だったんですけども、普段はこのお隣にあるヴォーリス建築の旧八幡郵便局という古い建物の一室を借りてアトリエをしています。アトリエに来られている出展者さんとは別の生徒さんが、ing展を見に行かれたんですけど、

その時NO-MAのスタッフの方に声をかけていただいて、今まで作品を出展するとかを考えたこともないタイプの生徒さんなのに俄然やる気が出て、来年出展したいとおっしゃっていて、制作意欲が10倍増くらいで取り組んでらっしゃるので、次回上手くいけば出展させていただけたらいいなと思います。

——最後に湖南ダンスカンパニーのどなたか。今日の感想も含めて少しお話をきかせてもらえたらと思います。

片岡 湖南ダンスワークショップのサポーター、アシスタントの片岡左知子、さっちーといいます。「はた」の絵を（自分たちで）描いたということも含めてすごくダンスだなと思っていて、今日踊る前の休憩時間にing展を見にいったんですけど、それで、みんなで座敷に座ってちゃぶ台を囲んでゲームを見ながらしゃべっているのもこれは作品かもしれないと思ったり。例えば、この（天井に）吊るしてある飾りは、今日の「はた」でこうやると揺れるんですよ。それがすごい楽しかったり。全部そういうのがダンスに繋がっていくなと思っていて、作っている時も制作しているところからダンスやなって思っています。そういうコラボでできることが面白いんじゃないかと思っているので、機会があれば、どんどん湖南ワークショップに遊びに来ていただきたいと思います。

第15回滋賀県施設・学校合同企画展
ing…～障害のある人の進行形～
開催報告

[開催概要]

会期(展覧会Ⅰ)=2018年12月1日(土)～2019年1月14日(月・祝)

会期(展覧会Ⅱ)=2019年1月19日(土)～2月24日(日) 計65日間

開館時間=11:00～17:00

休館日=月曜日(祝日の場合は翌日休館)

会場=ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

観覧料=一般200円(150円)、高大生150円(100円)

中学生以下・障害のある方と付添者1名無料 ※()内は20名以上の団体料金

主催=第15回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会、ボーダレス・アートミュージアムNO-MA(社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～)

後援=滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

協力=一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀

助成=障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金(滋賀県)

出展者=(前期) 飯沼美代、井上直人、M、太田浩一、片岡茂樹、勝見奈央、河崎美湖、川村梨菜、木田隼人、小島千賀子、崎元由美子、清水幸太郎、清水直樹、宗岬、寺田美智夫、HAYATO、久秋昌子、福井恒史、目片克尚、山田詠子、山村晴子、山本恒
(後期) I.Y、石村愛羽、伊藤咲紀、岡谷正司、鎌田倫岳、棋士☆2、後藤大輔、坂口晋吾、清水希、SHO、周防美希、鈴木彩華、大門亮介、辻元可奈、苗村世輝雄、畑俊行、林達郎、林風香、ぼかぼか2018、松村凌汰、宮浦康浩、山口真理子、山谷朋子 計45名

出展施設=(前期) あそしあ、救護施設ひのたに園、甲賀福祉作業所、さくらはうす、さんさん、しあわせ作業所、信楽青年寮、社会就労センター あおぞら、障害者支援事業所いきいき、バンバン、ふくらの森、放課後等デイサービス 第2ももスマイル

(後期) アトリエひこうきぐも、あんと、伊香立の杜 木輝、えがお、おうみ作業所、きりり庵、滋賀県立近江学園、滋賀県立信楽学園、滋賀県立野洲養護学校、ステップアップ21、にっこり作業所、能登川作業所、ひまわりはうす、ぼかぼか、みどり園

協力施設=滋賀県立八日市養護学校、彦根学園、蛍の里 計30施設

入館者数=1,262名

展覧会開催までのプロセス

この展覧会は、県内の障害福祉施設や特別支援学校、一般の造形教室など30機関とボダレス・アートミュージアムNO-MAによる実行委員会で企画・展示を行いました。月1、2回の実行委員会では、前後期の展示スペースで4グループに分かれ、自分たちで選んで持ち寄った作品を前に作品の魅力や背景を語り合い、それぞれの作品に合った展示案を作成しました。また、今回はアドバイザーとして美術家の野原健司さんに展示の協議だけでなく関連イベント、図録のグループワークにも入っていただくことで、全体を通してのアドバイスをいただき活性化した話し合いを重ねることができました。

第1回

7/2(月)18:30~20:30
 ◦ 事業説明、自己紹介、作品鑑賞の勉強会



第2回

7/26(木)18:30~20:30
 ◦ アドバイザーの紹介、作品実見



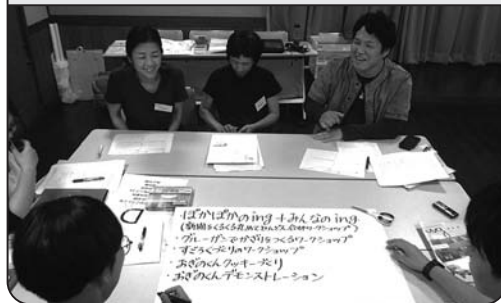
第3回

8/8(水)18:30~20:30
 ◦ 作品実見(作者と制作過程の紹介)



第4回

8/28(火)18:30~20:30
 ◦ 関連イベント、図録作成のアイデア出し



第5回

9/11(火)18:30~20:30
 ◦ 関連イベント、図録作成の方向性決定



第6回

9/25(火)18:30~20:30
 ◦ 展示方法のアイデア出し



第7回

10/9(火)18:30~20:30
 ◦ チラシのデザイン校正、展示イメージ図の作成



第8回

11/7(水)18:30~20:30
 ◦ 展示仕様の検討・決定→業者発注、搬入へ



第9回

12/18(火)18:30~20:30
 ◦ 中間開催報告、関連イベントの調整

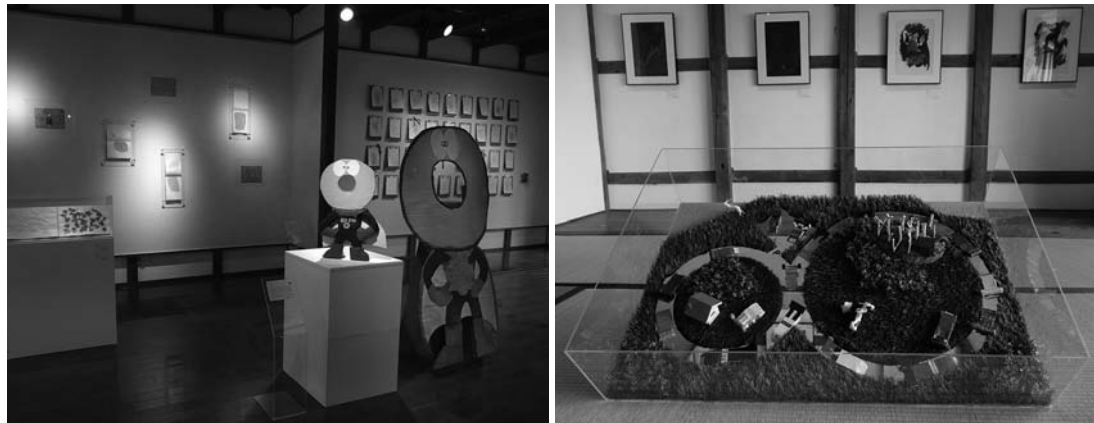


第10回

3/5(火)18:30~20:30
 ◦ 開催報告、意見交換



展覧会Ⅰ 開催風景



展覧会Ⅱ 開催風景



関連イベントの開催

… オープニング・ギャラリートーク

日時=2018年12月1日(土)13:30~15:00

2019年1月19日(土)13:30~15:00

参加者=12月1日/54名(出展者6名、実行委員13名、アドバイザー1名、ボランティアスタッフ4名、一般30名)、1月19日/36名(出展者7名、実行委員12名、アドバイザー1名、ボランティアスタッフ5名、一般11名)

会場=NO-MA

展示会の開催を祝うイベントに計90名の参加がありました。出展者13名が来場し、作品の前でギャラリートークを行いました。



… いつでもだれでもワークショップ

日時=会期中随時

会場=NO-MA

出展者の制作を体験するようなワークショップを常設で開催し、時期によって、体験できる内容を変更しました。

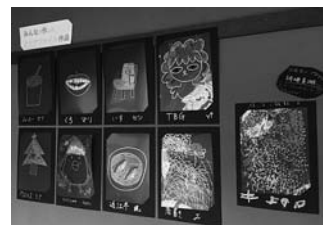
障害のある方だけでなく、子どもから大人まで多くの方に参加いただけたため、幅広く造形活動の取り組みを紹介できました。また、作者の制作を体験することで、参加者には作者をより身近に感じていただくことができました。

〈前期〉クリアファイルで作品づくり(12月1日~21日)

ペットボトルで作品づくり(12月22日~1月14日)

〈後期〉クレパスでつぶつぶ作り(1月19日~2月8日)

グルーガンで作品づくり(2月9日~2月24日)



ボランティアスタッフの活動

展示会の会場運営においては、来館者の多い土日祝日にボランティアスタッフとして19名の方にご協力いただきました。地域の方を中心に県外から参加いただく方もいました。主な活動は、来場者の対応、ワークショップの補助です。11月上旬に募集チラシを作成して呼びかけ、前後期の2回に分けて事前研修を開きました。

[ボランティアスタッフ] (敬称略)

飯田 至、石居佐代子、岩崎義雄、江角栄一、梶本奈美、川島幹雄、久保美代子、小島加奈子、重田克則、竹間義昭、虎若孝治、中島のぶ子、中出康夫、西川法、西山義雄、羽者家さおり、原正雄、前川房夫、米倉育子 計19名

[活動概要] (27日間)

期間=平成31年12月1日(土)~2月24日(日) ※10:30~13:30(午前)、13:30~17:30(午後)のうちシフトを選択して活動

活動内容=場内の清掃、展示作品の安全確認、会場監視、展示説明、ワークショップの補助など

… 活動日誌より

アンケートでは拾いきれない来館者の様子を活動日誌で報告いただき、出展関係者にお伝えすることで、展示会の様子が身近に感じられました。

- 休日は、親子連れの方や施設関係者の方の来場が多い。親子連れの方は、ペットボトルのワークショップを進めると、喜んで遊んで行かれる。
- 長野からお越しの方(福祉関係者)、クリアファイル作品を自分のところでもやってみたいとのこと。
- 奈良の施設の相談員や職員の方々数名で見学。「わが施設でも、子どもたちの作品を芸術として見る目を養わないと、作品を保存しないですててしまう」と悩んでおられました。「NO-MAさんのように作品を展示してみたい。すごく参考になりました」とのことでした。
- 赤ちゃん連れのご夫婦がすごろく*を楽しんでいられました。サイコロを見て、「1・2・3・ゼロか、きついな」「借金や」等盛り上がっていました。座ってくつろいで作品を楽しむ…という空間や展示はとてもステキだと思いました。
(※作品のレプリカを作者が作成したサイコロで体験いただきました)

アドバイザーのコメント

今年度からing展アドバイザーとして初めて参加させてもらい貴重な経験をさせて頂いたことを感謝しております。初めてということもあり、どの様な形で助言できるのかと幾分不安もありましたが、実行委員会が始まってみれば、施設職員の皆さんが作者さんのことを第一に考え、展示構成等についてもどんどんアイデアや要望を出していかれるので、その流れを頼りに一緒に面白い展示構成を考えている内に気がつけば自分自身かなりワクワクさせてもらっていた気がします。

ing展を私的に振り返ってみると「共働」や「愛情」といった言葉が何となく浮かび上がってきました。決して出過ぎず作者さんの意図を汲んでその都度必要な画材を提供したり、制作環境を整える職員さんの支えがあってより良く作品を作ることが可能になり、作者さんの創作エネルギーも気持ち良く増大されていく、「愛情」を制作のインフラとした相互影響のある「共働」作品なのではないかと思えたりもするのです。

殆どの出展作品は、作者さんの「作りたいから作る」「触れてみたいから見てみたいから作る」、という何ともし心地よいストレートな動機によって作られている印象で熱量も高い感じです。有用性を逸脱した遊びのスピリットや強い衝動性、執着心など、芸術的観点からも興味深い要素が多々あるのですが、作者さん自身は完成作品に関して無頓着な方が多いとのこと、ある作者さんは作った作品をどんどん廃棄してってしまうのを、職員さんが何とかゴミ箱から拾い上げ繋ぎ合わせて今回出展に至ったのだとか。展示方法の検討でも皆さんかなり悩まれていた様子で、ある職員さんは、色鉛筆で紙が破れるくらい色が塗り込められた名刺くらいのサイズの小作品群をいかにベストな形で見せるか、小作品の土台に小さなアクリルキューブで綺麗めという案もあったのですが、作者さんの仲良しの方が作られたという木片キューブを土台として採用することに決められていました。人の関係性で設えを決めていくという面白さもあるなあと感じたことを覚えています。

生存のために必要な範囲・有用性を超えて自発的に他者と交わっていく悦びそれ自体の中で、自身でも知らなかった姿が自他に開示されていく「活動」という概念を思想家ハンナ・アレントは社会における重要なものとして提示しています。

日々への愛情ある眼差し、自己表現することの創造的な波が周りに豊かさを広げていくような気がします。

野原健司

1975年大阪府生まれ。大阪府在住。2001年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了、2003年マルセイユ高等美術学校フランス政府給費留学修了。主な展覧会は、「ヨロズヨロズレ」(Ns ART PROJECT、大阪、2016)、「Coop Labyrinth、大阪、2015」、「路上ワールド」(小山市立車屋美術館、栃木、2013)。シェル美術賞2014年グランプリ。絵や立体、インスタレーション、映像アニメーションを制作。当然のごとく在る物の意味の綻びを見つけ出し、飛躍や変容を通して多様な日常の在り方を提示する。

実行委員アンケート

[展覧会について]

- 美術、造形活動の作品づくりの参考にさせてもらいたい作品も多数あり、作者さんの心、気持ちが表れた作品について、その背景を自分の所の利用者さんと重ねてみたり、色々な捉え方があるのだと改めて興味が湧いてきました。
- 内容はよいと思うのですが、どう情報提供して来ていただくかが…です。もっと多くの方々に見ていただきたいのですが。
- 長期にわたって展示方法や作品について計画されるので、すぐく見応えのある展覧会だなと思いました。

[出展者、家族、施設・学校職員の声]

- 展示することで出展者さんがいきいきされ、作品を作る意欲と自信が高まります。利用者さん同士で話題になり、共通の楽しみになり、職員同士も楽しんでいます。
- ご家族からいろんな作品を見て、触れて、とても刺激になったと手紙をいただきました。本人たちも喜んでいました。
- 出展者たちの展示を観にくる外出を企画することができました。職員がそのように動いたこともよかったと思います。
- 会場には来られていませんが、新聞やアンケートの声をしてもらい、大変喜んでおられました。お墓(※作品タイトル)の注文も入り、自信にも繋がり、他の方からもスクラップをもらったり、人と人のつながりが広がっています。
- 職員から利用者の創作活動を一緒にしたいと意見があった。
- 出展するにあたって作品紹介文を考える際に、上司やアート活動の講師と話し合いを重ねるうちに“作品”や“創作”活動で何が大切なのか、視点を学ぶことができた。

[実行委員会の運営について]

- 初めて参加したのですが、それぞれの施設、学校の担当者がひとつひとつ協議して企画展をつくり上げていく楽しさを経験することができて良かったと思います。
- アドバイザーさんが毎回出席くださったことで、よい学びの時間をいただけたように思います。
- 会議の内容や進め方とか展開がもう少しスムーズにいくといいなと思う。時々、開催までのテンポや展示の仕方などが分かっている前提で話されることがあり、提出物や展示に関わる素材は丁寧に教えて欲しいことがあった。
- 展示の協議の時間が短く感じました。もう少し話せる時間があるとありがたいです。
- 実行委員の方と話したり、他の事業所の作品を観たりして大変刺激を受けました。自分の事業所に戻って、日常の中に無限のアートの可能性を見つけ、感じる事ができました。

来場者アンケート

… 回収数**308**件
… よい**76.3%** まあまあよい**20.1%** ふつう**2.6%**
… あまりよくない**0%** よくない**0%** 無回答**1%**

- 作品1つ1つにストーリーがあり、それを読んだ上で作品を見るのが楽しく感じました。
- 文字や身近にあるもの（ペットボトル等）を使って、色彩豊かな作品になっていて、また作品によってはその時の感情を表している物もあり、素直に心に響きました。
- 作っておられる映像が流れていたのが、作品が出来るまでの行程を楽しみながら見ることができました。見る楽しさだけでなく、触る楽しさ等様々な視点があると感じました。
- 作品数が多すぎることなく、丁寧に展示してあってゆったりと作品を感じることが出来た。作品の背景が説明されたパネルも作家の日常を伝える素直な言葉で作品を見ながらずっと入ってきて心地良かった。
- こんな風に仕上げようとかではなく、まよいもなく内からにじみでる（はげしくほとばしるでもなく）わきあがってくるものでできていて、上手とか下手とか関係なく心をおだやかにしてくれる作品たちでした。
- こうやって展示している作品をみるのは日常見ているものとまた違った趣や目的があって興味深い。
- いつでもだれでもワークショップ（クリアファイル）作者の追体験ができるというのが面白いと思った。
- 作品ももちろん素敵ですが、一緒にいる方がその行動の発見をしていることが参考になった。作者の説明書きも丁寧に一層作品に愛着が湧きました。
- 手から生みだすもののバリエーションが豊かでおどろきました。とにかく見ていて楽しい。ありがとうございました。
- 作品を制作中の皆さん（作者の方々）の様子を想像しながら作品を観るのが楽しかったです。
- いつでもだれでもワークショップでつぶつぶ作りをしました。思いがけずひきこまれていて、畑さんと同じかも、と思いました。
- 我が家の子は、重すぎて何も出来ませんので、何か出来そうな事はないか、又発想、同じ物、いくつも作る根気のすごさに感心します。
- 障害を持つ者の内面の表象に関心を惹かれました。
- 展示会の構成、展示の仕方、関係者の方のコメントなど、すべて神経が使われていて、建物の素晴らしさと共に（これから個人的にスタートする時間にとってもまた、これまでの美術に関わった経験にとっても）とても良い機会となりました。

情報収集・発信

Part. 5

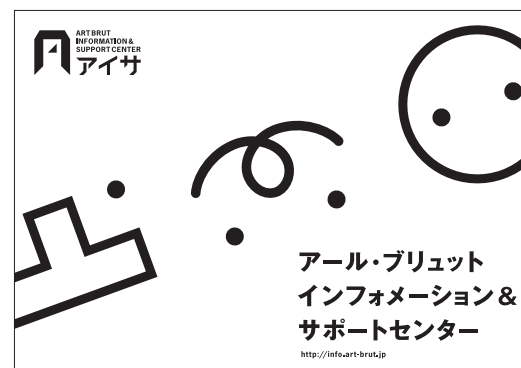
ウェブサイト・リーフレット紹介

昨年度から舞台芸術が本事業の対象分野となりましたが、相談がほとんどない上、昨年度実施の研修会（10回実施）では参加者数が伸び悩んだため、情報発信に課題があると考えました。そのため今年度は、アイサのリーフレットやウェブサイトをリニューアルする際、舞台芸術分野の支援について周知するため、舞台芸術分野に関する相談や研修もを行っていることを発信しました。ウェブサイトについては、10月にブログ機能を追加し、イベント情報やレポートをアップすることができるようになりました。県内の展覧会・公演情報などもアップしており、今後、滋賀の障害者の芸術文化活動の情報源となることを目指しています。

ウェブサイト掲載記事

日付	内容
2018.10.10	ウェブサイトリニューアルしました。
2018.10.15	[芸術活動支援のためのプログラム] 障害のある人と美術や舞台表現を楽しむために
2018.10.17	[芸術活動支援のためのプログラム]10/2(火)技術研修レポート
2018.12.03	「第15回滋賀県施設・学校合同企画展」開催
2018.12.14	レポート 第15回滋賀県施設・学校合同企画展オープニングギャラリー・トーク
2018.12.20	リーフレットをリニューアルしました
2018.12.25	2019年1月/アイサ研修会のご案内
2019.01.10	劇団まちプロ一座(大津市)公演のご案内
2019.02.04	ここ滋賀 チャレンジアート展 作品募集のご案内
2019.02.13	「第14回とっておき作品展」のご案内
2019.02.14	研修会レポート「アート商品の開発や作品売買について」
2019.02.20	展覧会情報「第一回 ふくらの森アート展」
2019.02.26	展覧会情報「ふじみ寮の絵画展」
2019.03.10	展覧会情報「えがおまるごと展示会」
2019.03.10	研修レポート【活動体験】 小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー@京都市ふしみ学園
2019.03.10	研修レポート【活動体験】 小暮宣雄さんと巡るワークショップツアー@大津ワークショップグループ

リーフレット



ウェブサイト



連携事務局（美術分野）

2018年度障害者芸術文化活動普及支援事業は全国24都道府県が支援センターを開設しています。それぞれの支援センターを支援する広域センター、全国を横断的に支援する事務局（連携事務局）という体制で行われており、社会福祉法人グローは支援センターとしてアイサを運営することと併せて、美術分野の連携事務局も担いました。舞台芸術分野の連携事務局は、社会福祉法人大阪障害者自立支援協会が担当しており、両事務局と厚生労働省で月1回程度、本事業全体の進捗管理や成果の取りまとめ等について協議を行いました。

①広域センター、支援センターへのアドバイス

広域センターや支援センターの運営がより充実するよう、各センターからの相談に応じる。

②全国連絡会議（3回）、研修会の開催

広域センター、支援センター、事業実施等道府県担当者を交えた全国連絡会議や研修会を開催する。

③全国の情報収集・発信、ネットワークの構築

本事業ウェブサイトを活用し、広域センター、支援センターが実施する事業の情報を収集・発信すると共に、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク（以下「全国ネットワーク」と表記）のウェブサイト「障害者芸術情報ナビ」との連携により、全国の障害当事者へ芸術文化活動に関する情報を届け、障害当事者の芸術文化活動への参加意欲の向上を促す。

④事業広報媒体の作成と普及

事業啓発リーフレットの作成及び先述したホームページを活用し、事業広報を積極的に展開するとともに、「全国ネットワーク」や全国障害者芸術・文化祭実行委員会の実施県に配置されるコーディネーターと協力し、事業周知を図る。

⑤全国の成果報告のとりまとめ、公表等

広域センター、支援センター、全国連携事務局の事業成果は、舞台芸術分野の全国連携事務局及び厚生労働省と協議の上、報告、公表を行う。第3回全国連絡会議と同時期に成果報告会を開催する。

⑥障害者団体、芸術団体等との連携

舞台芸術分野の全国連携事務局、広域センターと連携し、全国ネットワークの定期で開催している会議への参加、全国ネットワークが設立したウェブサイト「障害者芸術情報ナビ」の情報の更新の促進などを通して、本事業に関する情報発信や普及の強化を図るとともに、当事者の芸術文化活動への参加意欲向上を促す。

実施団体の紹介

今年度は、美術分野と舞台芸術分野を併せて、都道府県レベルの実施団体（障害者芸術文化活動支援センター）は24か所、広域レベル（広域センター）は5か所、全国レベル（連携事務局）は2か所で取り組まれています。広域レベルでは全国を7ブロックに分けて、ブロック内の都道府県や全国の連携がより密に図られるよう試みられ、今年度は、北海道・北東北ブロック、南関東・甲信ブロック、東海・北陸ブロック、近畿ブロック、九州ブロックの5か所に広域センターが立ち上がりました。広域センター不在のブロックについては、連携事務局と近くの広域センターが分担して、相談対応や会議の招集、合同展覧会・公演などの業務を行いました。

▶障害者芸術文化活動支援センター

ブロック	都道府県	実施分野	センター名(運営団体)	団体情報
北海道・北東北	広域センター	美術 舞台芸術	アール・ブリュット推進センター Gently (北海道アール・ブリュットネットワーク協議会)	061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70番地18 社会福祉法人ゆうゆう内 TEL 0133-22-2896 FAX 0133-23-0811 MAIL yuyu.artbrut@gmail.com WEB http://gently-artbrut.com
	青森県	美術	青森アール・ブリュットサポートセンター(AASC) (社会福祉法人あーど)	037-0014 青森県五所川原市若葉3丁目4-10(社福あーど内) TEL 0173-26-7551 FAX 0173-26-7551 MAIL aasc.aorid@gmail.com WEB https://www.aasc.jp/
	岩手県	美術	岩手県障がい者芸術活動支援センターかだあと (社会福祉法人岩手県社会福祉事業団)	020-0114 岩手県盛岡市高松3丁目7番33号(法人事務局内) TEL 019-662-6851 FAX 019-662-8044 MAIL kadarto@iwate-fukushi.or.jp WEB http://www.iwate-fukushi.or.jp/
南東北・北関東	宮城県	美術	障害者芸術活動支援センター@宮城(愛称:SOUP) (特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン)	980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2丁目3-22 第五菊水ビル3階(東北リサーチとアートセンター内) TEL 070-5328-4208 FAX 022-774-1576 MAIL soup@ableart.org WEB http://soup.ableart.org/
	栃木県	美術	とちぎアートサポートセンター TAM(タム) (認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館)	324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 TEL 080-3001-8088 FAX 0287-92-8088 tam@nactv.ne.jp WEB http://tam-mob.org/
南関東・甲信	広域センター	美術 舞台芸術	東京アール・ブリュットサポートセンター Rights(ライツ) (社会福祉法人愛成会)	164-0001 東京都中野区中野5-26-18 TEL 03-5942-7251 FAX 03-3387-0820 MAIL rights@aisei.or.jp WEB http://brut.tokyo/
	埼玉県	美術 舞台芸術	アートセンター集 (社会福祉法人みぬま福祉会)	333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445 TEL 048-290-7355 FAX 048-290-7356 MAIL kobo-syu@marble.ocn.ne.jp WEB http://artcenter-syu.com/
	東京都	美術 舞台芸術	アーツサポ東京 (社会福祉法人トット基金)	141-0033 東京都品川区西品川2-2-16 TEL 03-3779-0233 FAX 03-3779-0206 MAIL info@artssup-totto.org WEB http://www.totto.or.jp/
	山梨県	美術 舞台芸術	山梨芸術活動支援ネットワークセンター(YAN) (社会福祉法人八ヶ岳名水会)	408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条1237-3 日野春学舎 TEL 0551-32-0035 FAX 0551-32-6351 MAIL yan@y-meisui.or.jp WEB http://y-meisui.or.jp/yan/
東海・北陸	広域センター	美術 舞台芸術	新潟県アール・ブリュット・サポート・センター NASC(ナスク) (社会福祉法人みんなでき)	943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル307号室 社会福祉法人みんなできの法人本部内 TEL 025-530-7264 FAX 025-530-7261 MAIL info@niigata-artbrut.net WEB http://niigata-artbrut.net/

東海・北陸	新潟県	美術 舞台芸術	新潟県障害者芸術文化活動支援センター「ららーと」 (特定非営利活動法人アートキャンプ新潟)	950-0025 新潟県新潟市東区藤見町1-11-12 TEL 025-290-7226 FAX 025-290-7324 MAIL toiwase@lalart.info WEB https://lalart.info/
	富山県	美術	富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま (特定非営利活動法人アートNPOココベリ)	933-0115 富山県高岡市伏木古府元町2-5 アートNPO工房ココベリ内 TEL 070-2643-0796 MAIL beart.toyama@gmail.com WEB https://bearttoyam.jimdofree.com/
	岐阜県	美術 舞台芸術	岐阜県障がい者芸術文化支援センター (tomoni アートサポートセンター: TASC ぎふ) (公益財団法人岐阜県教育文化財団)	502-0841 岐阜県岐阜市学園町3丁目42番地 TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811 MAIL tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp WEB http://www.seiryu-plaza.jp/tasc/
	静岡県	美術 舞台芸術	静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと (特定非営利活動法人オールしずおかベストコミュニティ)	420-0031 静岡市葵区呉服町2-1-5 風来館(ごぶくかん) 4階(障害者働く幸せ劇出センター内) TEL 054-251-3520 FAX 054-251-3516 MAIL info@mirart-shizuoka.com WEB http://www.mirart-shizuoka.com/
	愛知県	美術 舞台芸術	Aichi Artbrut Network Center(AANC) AANCあいちアールブリュットネットワークセンター (特定非営利活動法人楽笑)	443-0021 愛知県蒲郡市三谷町若宮99-9 TEL 0533-66-6228 FAX 0533-66-6229 MAIL aanc@rakusho.info WEB http://aanc.jp/
近畿	広域センター	美術 舞台芸術	障害とアートの相談室 (一般財団法人たんぼの家)	630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4 TEL 0742-43-7055 FAX 0742-49-5501 MAIL artsoudan@popo.or.jp WEB http://artsoudan.tanpononye.org/
	滋賀県	美術 舞台芸術	アール・ブリュットインフォメーション&サポートセンター(アイサ) (社会福祉法人グロー)	521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837番地2 TEL 0748-46-8118 FAX 0748-46-8228 MAIL artbrut_info@glow.or.jp WEB http://info.art-brut.jp
	京都府	美術	京都府健康福祉部障害者支援課	604-8570 京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町 TEL 075-414-4603 FAX 075-414-4597 MAIL shogaishien@pref.kyoto.lg.jp WEB http://www.pref.kyoto.jp/shogaishien/art.html
	大阪府	美術 舞台芸術	国際障害者交流センタービッグ・アイ (社会福祉法人大阪障害者自立支援協会)	594-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1 TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 MAIL arts@big-i.jp WEB http://big-i.jp/
	和歌山県	美術	和歌山県福祉保健部 福祉保健政策局障害福祉課	640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地 TEL 073-441-2532 FAX 073-432-5567 MAIL e0404001@pref.wakayama.lg.jp WEB https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/index.html
中国・四国	鳥取県	美術	あいサポート・アートインフォメーションセンター (特定非営利活動法人アートピアとっとり)	682-0821 鳥取県倉吉市魚町2563 TEL 0858-33-5151 FAX 0858-33-4114 MAIL info.artcenter@ncn-k.net WEB https://art-infocenter.jimdo.com/
	広島県	美術	アートサポートセンターひゆるる (特定非営利活動法人コミュニティリーダーひゆるるぼん)	731-0102 広島県広島市安佐南区川内6-28-15 TEL 070-5671-8668 FAX 082-831-6889 MAIL info@hulupong.jp WEB http://www.hululu.jp
	徳島県	美術	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター (社会福祉法人徳島県社会福祉事業団)	770-0005 徳島県徳島市南矢三町2丁目1-59 徳島県立障がい者交流プラザ1階 TEL 088-631-1200 FAX 088-631-1300 ウェブサイトの問合せフォームから http://kouryu-plaza.jp/gb-center/
	高知県	美術	薫工ミュージアム (特定非営利活動法人ワークスみらい高知)	780-0074 高知県高知市南金田28 アートゾーン薫倉庫 TEL 088-879-6800 FAX 088-879-6800 MAIL info@warakoh.com WEB http://warakoh-museum.com/
	福岡県	美術 舞台芸術	九州障害者アートサポートセンター (特定非営利活動法人まる)	815-0041 福岡県南区野間1-16-15-203 TEL 092-516-0677 FAX 092-516-0677 MAIL info@kda-support.org WEB http://kda-support.org
九州	福岡県	美術 舞台芸術	福岡県障がい者芸術文化活動支援センターSCORE (特定非営利活動法人らいふステージ)	838-0106 福岡県小郡市三沢水沢465-3 TEL 0942-72-0667 FAX 0942-41-2155 MAIL score@lifestage.jp.com WEB http://score-fk.jp/
	長崎県	美術 舞台芸術	Saga Art Brut Network Center(SANC) (社会福祉法人はる)	849-0917 佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬1168-1 TEL 080-2794-6195 FAX 0952-34-1024 MAIL info@s-brut.net WEB http://s-brut.net/
	熊本県	美術	障害者芸術文化活動普及支援センター@熊本 (社会福祉法人愛隣園)	861-0551 熊本県山鹿市津留2022 TEL 0968-43-2771 FAX 0968-43-2793 MAIL ailingan@magma.jp WEB http://aileans.com/saca/
大分県	美術 舞台芸術	こみっとあーと (社会福祉法人みずほ厚生センター)	875-0041 大分県臼杵市大字臼杵72-137さぼーとセンター風車内 TEL 0972-63-5888 FAX 0972-63-0791 MAIL commitart2017@gmail.com WEB https://www.facebook.com/こみっとあーと-272147616600675/	

全国連絡会議の開催

第1回

日時=2018年7月27日(金)11:00~16:00

会場=航空会館901会議室(東京都)

出席者=全国の実施団体、自治体関係者、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク、大分県国民文化祭・障害者芸術文化祭局、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会、厚生労働省、文化庁の41団体(56名)



第1回は、全国のセンターや自治体担当者の顔合わせとなり、事業開始間もない団体もあるなか56名の方々に集まっていただきました。広域センターと連携事務局から事業計画の説明の他、今年度新規に事業を実施される団体や都道府県において参考になるよう、美術分野2団体、舞台芸術分野2団体からこれまでの取り組み事例を紹介してもらいました。また、全国規模で活動する障害者の芸術文化に関する団体からの事業説明を設けました。

第2回では、会議の後に研修会「障害のある作者・演者の意思決定支援について」を行いました。支援センターで障害のある人の創作に関わる中間支援を行う際、相談者において当事者の意思が十分に汲み取れないことがあります。その際にどのようなことに配慮して対応すればよいかについて、障害者や高齢者の意思決定支援に長年携わっている弁護士の水島俊彦さんに講義をしていただきました。講義に加えて、イギリスで開発されたトーキングマットというツールを用いて、障害のある作者の作品展示などの事例で意思決定を支援するグループワークも行いました。参加した各支援センターからは、今後の相談対応にも活かしたいという感想が多く寄せられました。

第3回の会議では、今年度事業の取りまとめに加え、厚生労働省から次年度事業についての説明がありました。終了後は成果報告会を開催し、約160名の方々に来場いただきました。支援センターがどのようなことをしているのかプレゼンを行うことで、本事業の幅広さを知っていただくとともに、「今後の障害者の芸術文化活動に期待すること」と題してパネルディスカッションを行いました。

第2回

日時=2018年10月31日(水)11:00~16:00

会場=J:COMホルトホール大分302.303会議室(大分県)

出席者=全国の実施団体、自治体関係者、法テラス埼玉法律事務所、日本ファンドレイジング協会、三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター、厚生労働省など42団体(59名)



第3回

日時=2019年3月5日(火)10:30~12:45

会場=TKPガーデンシティ PREMIUM秋葉原 ホール3A(東京都)

出席者=広域センター、全国連携事務局、三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター、厚生労働省など57団体(82名)



[モデレーター]

太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター 主席研究員、センター長)

[スピーカー]

坂野健一郎(社会福祉法人みんなできろ／東海・北陸ブロック広域センター)

岡部太郎(一般財団法人たんぼの家／近畿ブロック広域センター)

久保厚子(全国手をつなぐ育成会連合会会長／2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク会長)

前山裕司(新潟市美術館館長)

北村成美(ダンサー・振付家／湖南ダンスカンパニーディレクター)

広域センター未設置ブロックの フォロー業務

今年度、南東北・北関東ブロック及び中国・四国ブロックに広域センターが設置されなかったため、このブロックのフォロー業務も行いました。南東北・北関東ブロックは当法人が、中国・四国ブロックは社会福祉法人大阪障害者自立支援協会（ビッグ・アイ）が主なフォロー業務を担いました。

当法人では、支援センターへの巡回訪問、ブロック会議の開催に加えて、本事業を実施していない福島県、山形県、群馬県に対しては、次年度以降のセンター設置に向けて「障害のある人が表現活動をするこの意味」と題した研修会を開催しました。

1. ブロック会議・研修の開催

日時=2018年11月26日(月)13:30~17:00

会場=TKP郡山カンファレンスセンター ワシントンルーム2(福島県)

内容=連携事務局から全国の実施状況の報告、支援センター及びセンター未設置県からの報告、次年度に向けての意見交換

出席者=支援センター、実施県担当者、未実施県担当者等 計13名

2. 支援センター及び支援センター未設置県の視察・ヒアリング

日程	訪問県	内容
10月5日(金)	茨城県	県庁を訪問し、次年度実施に向けた協議を行った。
10月19日(金)	山形県	社会福祉法人愛泉会ぎやらりーら・らへ訪問後、同ギャラリーの村山館長と武田スタッフに同行して県庁を訪問し、次年度実施に向けた協議を行った。
10月19日(金)	福島県	はじまりの美術館の岡部館長、小林スタッフと県庁を訪問し、次年度実施に向けた協議を行った。
11月15日(木)	宮城県	障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)のカルチュラルスタディツアー(石巻編)を視察し、担当者にヒアリングを行った。
11月16日(金)	群馬県	県庁を訪問後、県内のNPO団体へのヒアリングに同行し、群馬教育大学と文化庁の共同事業のシンポジウムに出席した。
12月5日(水)	栃木県	とちぎアートサポートセンターTAM(タム)のTAM会議と著作権研修会を視察し、ヒアリングを行った。

3. 支援センター未設置県での研修会

「障害者福祉施設でのアートをするこの意味」の開催

(1) 山形県	(2) 福島県	(3) 群馬県
日時=2019年3月1日(金)	日時=2019年3月10日(日)	日時=2019年3月17日(日)
18:30~20:30	15:30~17:30	13:00~16:00
会場=ぎやらりーら・ら(山形市)	会場=はじまりの美術館(耶麻郡)	会場=群馬県庁29階291会議室(前橋市)
協力=社会福祉法人愛泉会	協力=社会福祉法人安積愛育園	共催=群馬県
参加者=12名	参加者=10~15名	参加者=34名

情報発信

リーフレット

発行=6万部(10月22日完成)

主な配付先=全国的美術館、文化施設、劇場、芸術大学、自治体の障害福祉・文化芸術主管課等

事業概要、今年度のセンター一覧、ウェブサイト情報などを掲載しており、このリーフレットからウェブサイトに繋がりを、各センターへの相談やイベント参加に繋がりました。



ウェブサイト

URL=<http://renkei-sgsm.net/> (公開:9月20日)

情報アップ記事数=各センターからのお知らせ194件、連携事務局からのお知らせ16件
アクセス数=4016件 ※いずれも2019年3月1日時点

事業概要から全国のセンターの一覧の他、トップページには各センターのウェブサイトの最新情報や各センターの実施予定を共有する「イベントカレンダー」を表示しています。「連携事務局からのお知らせ」には過去の取り組み事例を紹介するブログや視察先のレポートを定期的に掲載しました。



総括

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

活動の概要

活動の目的

活動の経緯

活動の成果

今後の展望

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

お問い合わせ

今年度、アイサのリーフレットとウェブサイトをリニューアルし、舞台芸術分野に関する相談や研修も行ってPRしたことで、舞台芸術に関する相談が寄せられるようになりました。ウェブサイトでは、研修会のレポートや県内の展覧会・公演情報を定期的にアップしており、今後、滋賀県の障害者の美術や舞台表現に関する情報のポータルサイトとして活用してもらえるよう、県内の情報収集・発信に積極的に取り組みたいと考えています。相談対応では、作品売買に関する相談が増えたことが特徴的でした。障害のある作者の意思確認や売買の手続きに関する相談を受けるなかで、その根底には作品が人の手に渡る（自分たちの管理できる範疇を超えていく）ことへの漠然とした不安があるように感じました。今後も作品売買に関する相談が増えていくことが予想されるため、提供できる情報の整理を進めていきます。

人材育成については、研修会の開催数を昨年度の半分とし、当法人の別の事業で行う研修会と併せたチラシを作成して配布したことで、どの研修会もほぼ定員数の参加者数となりました。福祉や美術の関係者だけでなく、特別支援学校や文化施設、作業療法士、地域住民などさまざまな人に参加いただきました。アンケート結果（回収率平均87%）では86~100%が「大変満足、満足」との回答があり、ニーズにあった研修テーマと実施内容であったと思います。

県内30の団体等と連携して「第15回滋賀県施設・学校合同企画展」を開催し、展示構成やチラシ・図録作成などの協議を丁寧に行い、45名の作品を紹介しましたが、その多くは初めて作品を発表する方々でした。実行委員会では活発に意見が言い合える雰囲気なかで、障害のある人の創作的な表現について、その魅力を言葉にする力や作品の見せ方、チラシ・カタログ制作やイベント開催など展覧会全体を段階的に学ぶことができました。また各団体において造形活動を担当している職員は孤軍奮闘していることが多く、毎月の実行委員会では他団体の担当者と話をするのは悩みを共有したり、情報収集の機会となっており、ネットワークづくりとしても有効な場となっています。

会期中には「ザ・ベストワンショー」として創作ワークショップやステージ発表を行うイベントを開催し、障害のある方々を中心に99名が交流する場をつくりました。協力委員会では、今年度から舞台芸術分野からも委員に就任いただきました。それぞれの委員からは今年度の取り組みに即効性のある助言を多くいただいております。今後も協力委員会で事業運営について専門的なアドバイスをいただくことは不可欠だと考えています。

次年度もアイサを運営するにあたり、引き続き、障害のある人の美術と舞台芸術活動の裾野を広げていくために必要な事業を検討し、取り組んでいきたいと思っております。最後になりましたが、本事業を実施するにあたり、ご協力いただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。

本事業の実施にあたり、多くの関係者の皆さまにご協力いただきました。心からお礼申し上げます。

（敬称略・順不同）

〔人材育成〕

小暮宣雄(京都橘大学現代ビジネス学部)、中島慎也(京都市ふしみ学園)、清水美紀、広瀬浩二郎(国立民族学博物館 グローバル現象研究部)、山崎慎也(ライフスペース・プロベラ戎laboratory)、森下静香(たんぼの家/Good Job!センター香芝)、平塚崇(北大津きぼう法律事務所)

〔参加型展示会〕

「第15回滋賀県施設・学校合同企画展」
〈作者〉飯沼美代、井上直人、M、太田浩一、片岡茂樹、勝見奈央、河崎美湖、川村梨菜、木田隼人、小島千賀子、崎元由美子、清水幸太郎、清水直樹、宗岬、寺田美智夫、HAYATO、久秋昌子、福井恒史、目片克尚、山田詠子、山村晴子、山本恒、I.Y、石村愛羽、伊藤咲紀、岡谷正司、鎌田倫岳、棋士 ☆2、後藤大輔、坂口晋吾、清水希、SHO、周防美希、鈴木彩華、大門亮介、辻元可奈、苗村世輝雄、畑俊行、林達郎、林風香、ぼかぼか2018、松村凌汰、宮浦康浩、山口真理子、山谷朋子
〈実行委員〉上田ひろみ、加納厚子、川島洋、大橋由香理、中野早苗、岸本拓真、久保田匠、小牧文子、芝田春香、副島忠義、高雄順子、高田夏帆、塚本智映、水流寿子、百々隆久、外山聖、前田千夏、中井裕章、香月剛、中川文、西田恵子、青木啓示、西原祐子、野瀬信、馬場康宏、馬場啓介、久木富久子、福山かおり、藤原千秋、堀田二、松尾慎一郎、松本奈美、水谷信人、向畑健太郎、山本優里

〈参加機関〉(社福)湖北会あそしあ、(社福)グロー看護施設ひのたに園、(社福)甲賀市社会福祉協議会甲賀福祉作業所、(社福)びわこ学園大津支援センターさくらほす、(社福)びわこ学園障害者支援センターさんさん、(特非)就労ネットワーク滋賀しあわせ作業所、(社福)しがらき会信楽青年寮、(社福)おおつ福祉社会社会就労センター あおぞら、(社福)きぬがさ福祉会障害者支援事業所いきいき、(社福)グローバンバン、(社福)湖北会ふくらの森、労協センター事業団 草津地域福祉事業所みんなの家 放課後等デイサービス第2ももスマイル、アトリエひこうきぐも、(特非)あんと、(社福)おおつ福祉会伊香立の杜 木輝、(社福)びわこ学園障害者支援センターえがお、(社福)おうみ福祉会おうみ作業所、(社福)美輪湖の家ざらり庵、滋賀県立近江学園、滋賀県立信楽学園、滋賀県立野洲養護学校、(社福)とよさと彦愛犬地域障害者生活支援センターステップアップ21、(社福)悠紀会にっこり作業所、(社福)グロー能登川作業所、(社福)びわこ学園大津支援センターひまわりほす、(社福)ノエル福祉会障害福祉サービス事業所ぼかぼか、(社福)和光会みどり園、滋賀県立八日市養護学校、(社福)青い鳥会彦根学園、(社福)湖南会蛸の里

〈アドバイザー〉野原健司

〔関係者のネットワークづくり〕

「協力委員会」

石黒望(〔一社〕滋賀県作業療法士会/医療法人恒仁会 近江温泉病院 総合リハビリテーションセンター)、北村成美(湖南ダンスワークショップ)、

峪卓宏(近江八幡市福祉子ども部障がい福祉課)、城奈緒美(近江八幡

市総合政策部文化観光課)、田平麻子(滋賀県立近代美術館)、寺崎文彦(滋賀県立野洲養護学校)、西川澄子(滋賀県県民生活部文化振興課)、原正雄(ボーダレス・アートミュージアムNO-MAボランティアスタッフ /〔株〕ワコール社友会ワコール倶楽部代表幹事)、平塚崇(北大津きぼう法律事務所)、松尾慎一郎(第15回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員長 /〔社福〕悠紀会にっこり作業所)、山田智大(滋賀県健康医療福祉部障害福祉課)

「ザ・ベストワンショー〜創作ワークショップ&ステージ〜」

〈出展者〉太田浩一、木田隼人、SHO、山本恒、塚本智映、野原健司

〈出演者〉安藤修平、川村正喜、伊藤美実子、中野早苗、角谷真世、木村まゆみ、重田鮎佳、田中康平、田中佑芽、西野龍、西村有加、乾光男、片岡左知子、北村成美

〈運営協力〉香月剛、川島洋、久保田匠、小牧文子、西田恵子、西原祐子、久木富久子、向畑健太郎

〔連携事務局〕

北海道アール・ブリュットネットワーク協議会、(社福)あーど、(社福)岩手県社会福祉事業団、(特非)エイブル・アート・ジャパン、(認定特非)もうひとつの美術館、(社福)愛成会、(社福)みぬま福祉会、(社福)トット基金、(社福)ハッケ岳名水会、(社福)みんなでいきる、(特非)アートキャンプ新潟、(特非)アートNPOココベリ、(公財)

障害者芸術文化活動支援センター事業 滋賀 2018年度報告書
2019年3月31日発行

〔制作・発行〕

アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター
社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
法人本部企画事業部
〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2
TEL 0748-46-8118 FAX 0748-46-8228
E-mail artbrut_info@glow.or.jp
WEB <http://info.art-brut.jp>

〔発行責任者〕

北岡賢剛(社会福祉法人グロー（GLOW）理事長)

〔執筆〕

木元聖奈、松井裕紀、高山円(社会福祉法人グロー（GLOW）法人本部企画事業部)

〔デザイン〕

木谷真人

〔写真〕

辻村耕司(P.28~32,P.34の一部)
平田尚加(P.16)

〔印刷製本〕

株式会社ムーブ

〔助成〕

平成30年度障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金(滋賀県)



